

旧岸和田港之図

50年の記録

岸和田港振興協会

2003



ごあいさつ



岸和田港振興協会は、ここに発足50周年を迎えることになりました。

この間、臨海地区から、木材港地区、地藏浜地区、旧港再開発地区、そして現在事業中の阪南2区と、港の整備、埋立て造成が行われ、岸和田の臨海部は、大きく変貌、発展をとげてまいりました。

岸和田港振興協会は、昭和27年12月に発足して以来、岸和田港として、また昭和43年4月には、岸和田港、忠岡港、貝塚港の3港が統合された阪南港として、港の発展や地域社会の発展に寄与し、輝かしい足跡を残してまいりました。これも、ひとえに諸先輩をはじめ、会員皆様方のご指導、ご鞭撻さらに関係機関各位のご尽力のたまものと深く敬意を表するしだいであります。

今後もこの歴史の重みをふまえながら、さらに港湾事業のたゆまぬ見直しや、研究を怠らず、地元港湾、産業の振興を通じて、地域経済の活性化に貢献すべく最大の努力を重ねてまいる所存でございます。会員並びに関係の皆様には、当協会に対し益々のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

岸和田港振興協会

会長 原 昇

岸和田港振興協会 50 年史の発刊によせて

大阪府港湾局長 横山隆司

岸和田港振興協会が発足から 50 年目を迎えられ、このたびその間の活動を記録するため「協会 50 年史」を発刊されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

また、半世紀の永きにわたり、地元岸和田で港湾に関わる事業に携わりながら協会活動を盛り立て、支えてこられた会員の皆様をはじめ、協会の運営にご尽力されてこられた会長や役員の皆様のこれまでのご苦労、ご努力に対し、深く敬意を表します。

昭和 43 年に岸和田港が貝塚港や忠岡港とともに重要港湾「阪南港」として新しいスタートをきって以降も、わが国の高度経済成長期に急進展した都市化に伴う建設需要を支える木材コンビナート整備をはじめ地域の産業と密接な関わりを持つ貨物の取扱を中心に着実な発展を続けてまいりました。

近年では、平成 6 年の関西国際空港の開港を契機として、次代に向けたウォーターフロント開発が進む中で、平成 9 年の商業施設「岸和田カンカン」オープンを皮切りにアクアヴェルデ岸和田（岸和田旧港再開発事業）の整備、そして平成 14 年の「浪切ホール」の完成など、多彩な賑わいを生み出すエリアとして注目を集めております。

さらに、最近では、阪南 2 区への連絡橋が完成し、市民の皆様からの応募により、「ちきりアイランド」と「岸の浦大橋」のネーミングをいただくなど、常に時代の先端を行く潮流の中で、地域の皆様とともに新しい歩みを進めております。

大阪府港湾局では、平成 16 年 2 月に完成いたします阪南 2 区沖合いの人工干潟事業をはじめ、「環境の世紀」と呼ばれる 21 世紀にふさわしい港湾環境の整備に取り組んでまいりますので、貴協会及び会員の皆様には今後さらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岸和田港振興協会創立 50 年史の発刊によせて

大阪府港湾協会会長 牧野文雄

岸和田港振興協会が創立 50 周年を迎えられ、この度「協会 50 年史」を発刊される事になりました。心からお祝いを申し上げます。

貴協会は、戦後間もない昭和 27 年、他港に先駆けて、岸和田港の振興対策を推進し、岸和田市及び泉州一帯の産業経済並びに文化の発展に寄与する事を目的に設立されました。以来、岸和田地域のみならず大阪府の港湾区域のすべてに対しまして、非常に大きな貢献を果たしてこられたのであります。

これまで貴協会の事業発展の為、たゆまぬ献身と努力を捧げてこられました役員はじめ、会員の皆様方のご尽力、ご苦勞に対しまして、改めて深く敬意を表する次第であります。

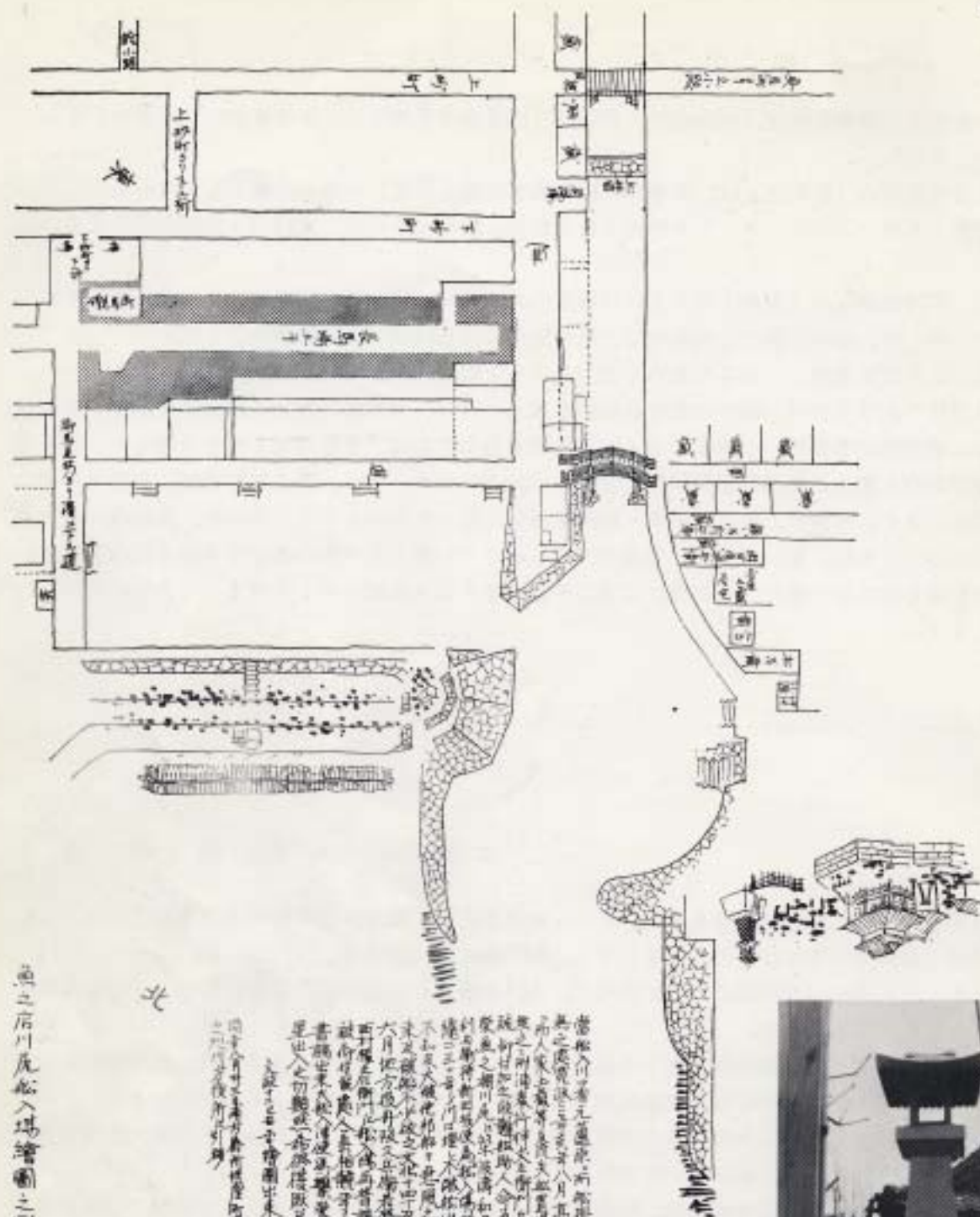
さて、我々が今活動している日本の社会や世界の状況を見ますと、過去に例の見ない様なテンポで変化を続けて居りまして、例えば、近年の経済のグローバル化や環境に対する世界的な関心の高まりなど、港湾を取り巻く環境も刻々と新たな要素を加えつつあります。

この点、岸和田におきましては、人と水・緑が調和するまちづくりである「岸和田カンカンベイサイドモール」や「浪切ホール」をはじめとするウォーターフロントの開発、あるいは、大阪府港湾局が平成 16 年 2 月に岸和田市沖に完成いたします人工干潟など、新しい時代の要請に応じた様々なプロジェクトも着々と進められて居ります。

大阪府港湾協会と致しましては、引き続き大阪府港湾局と手を携えまして、地元関係者をはじめ行政や民間の協力・連携に依りまして、府営港湾の振興と発展にむけて、愈々事業展開に努めて参りたいと存じて居ります。

皆様方の今後より一層のご理解とご協力をお願い致します。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と、会員をはじめ関係皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げご挨拶と致します。



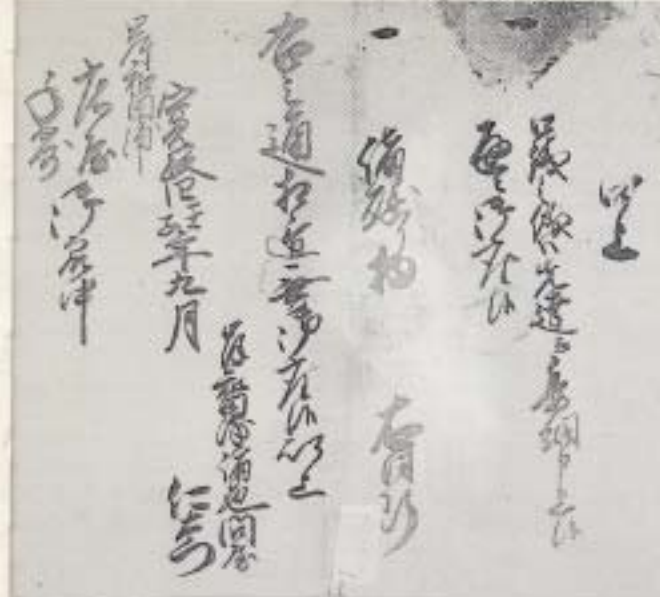
旧港口付近にあった常夜灯(灯台)

魚ノ店川（古城川）尻船入場絵図添録
当船入川口者元芦原ニ在船掛り場無
之処、寛政三辛亥年八月高浪ニ有人家
・土藏等及流失、船置場毛無之
ニ附、浦奉行伴丈左衛門江土砂留被
仰付、加之救難船、助人命、
為繁栄、魚之棚川尻江築波濤、
和泉屋利兵衛持新田掘、使為船入場、
雖然纔三ヶ年ノ川口埋レ、不能
船出入、所々不知及大破、他邦
船々急風之蹴馳来及破船不少、
依之文化十四丁丑年六月地方役舟阪
久兵衛・若林喜右衛門・西村權之右衛
門江船入場再普請掛り被仰付候処、
人氣相競、年ヲ不越而、普請出来、
大船入津使為繁栄、載星出入之
切頭然、希修復一厭怠惰而已

文政十二 巳丑 年繪圖出来

魚之居川底必入珊瑚圖之寫

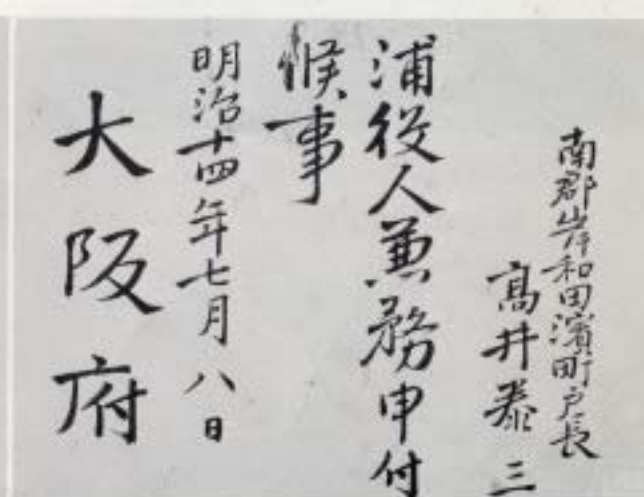
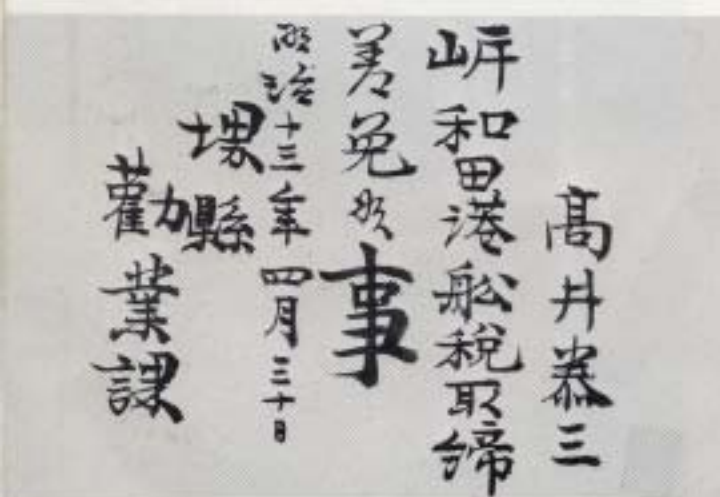
岸和田浦諸色問屋の一人仁右衛門が、寛政4年(1792)3月から9月までの入船の積荷と代銀を書き上げたものによると、入船79隻で、移入先は、土佐28、阿波20、播磨25、紀州熊野2、大坂2、岩国1隻で、移入品目は、薪(阿波・土佐)27隻、塩(播磨八家塩など)25隻、紙(土佐半紙など)3隻、石灰(阿波など)2隻となっている。



大手町山崎家（屋号は塩屋）の眼鏡場

山崎家が海運兼諸色問屋を営みし時、この楼上に望遠鏡を備えて、岸和田の港へ近づく船の帆印をいち早く見届け、荷物の積卸の準備をととのえたのであった。

この建物は江戸中期頃に建てられ、昭和9年まであった。



明治11年の「輸出入取調届扣」では、6～9月の4ヶ月で、入船571艘、出船95艘で、移出品目は木綿・酒・油・西瓜・鯖粕・蝦蟹(えびかに)子、移入品目では米・薪・塩・洋糸・油粕となっています。

明治29年岸和田港輸出入物

品名	数称	輸 出			輸 入		
		数 量	価 額 円	仕向先国名及其歩合	数 量	価 額 円	仕出先国名及其歩合
米	石	992	9,424	大阪6分・神戸4分	1,770	16,815	大阪6分・神戸4分
蜜柑	箱	105,000	31,500	大阪4分・神戸3分 馬関2分・朝鮮1分	—	—	—
炭	俵	—	—	—	96,000	38,400	紀州4分・土佐3分 阿波3分
塩	〃	—	—	—	24,500	3,675	播磨
清酒	石	2,315	43,985	東京6分・神戸4分	—	—	—
油粕	個	4,500	1,350	兵庫6分・横浜4分	—	—	—
木材	本	—	—	—	877,870	24,580	土佐5分・紀州5分
紡績糸	俵	450	38,250	大 阪	—	—	—
綿	貫	—	—	—	613,250	735,900	神戸7分・大阪3分
薪	〃	—	—	—	196,680	29,336	阿波5分・土佐5分
石炭	斤	—	—	—	9,000,000	40,500	神戸6分・大阪4分
石油	箱	—	—	—	5,000	11,000	大阪6分・神戸4分
竹	貫	—	—	—	10,000	1,000	土佐4分・紀州6分
雑		—	55,000	東京1分・神戸2分 大阪3分・其他4分	—	35,000	大阪4分・神戸3分 播磨2分・土佐1分

資料：大阪府農工商統計



明治30年代頃の岸和田港
中央の山は天保山



明治30年代頃の岸和田港
右手前は船津橋付近、中央松林は防波堤



明治30年代頃の岸和田港
後方中央の建物は迎帆楼



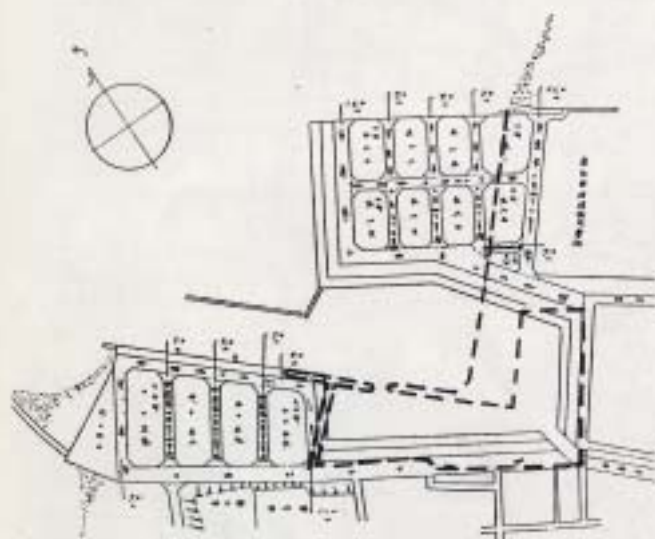
明治30年代頃の岸和田港
左松林は防波堤、中央建物は岸和田紡績本社工場



大正から昭和初期に西出書店発行の絵ハガキ
岸和田沖網引



昭和初期の岸和田港
左上松林は防波堤



昭和13年8月15日岸和田市公報掲載、市道路
区域決定図上に修築前の岸和田港を点線で示す。
岸和田市が、昭和8年11月から13年3月にか
け修築



昭和24年9月の都市計画図
昭和22年5月より大阪府が、岸和田新
港造成に着手し、昭和31年に完成する。



昭和24年頃
岸和田～淡路航路の泉州丸



昭和29年2月岸和田港口
右灯台は西防波堤赤灯台。現在岸和田旧港
港口の水門工事のため、撤去される。



昭和30年頃の岸和田港 魚市場へ入船の活況



昭和30年頃の岸和田港修築工営所（右）
大阪税関岸和田監視署（左）

修築工営所は44年4月岸和田港湾事務所に名称改め、現在も変わらず。大阪税関岸和田監視署は32年出張所に昇格し、46年4月堺税関支署岸和田出張所となり、現在の合同庁舎（新港町）に移転する。



昭和30年頃の岸和田港

中央の建物は大阪府南部海上防災協会所有。この地には大阪海上保安監部岸和田分室（下）が30年に建てられる。



昭和30年頃の旧春木海岸風景



昭和30年12月大阪海上保安監部岸和田分室落成竣工式

40年4月岸和田分室から岸和田海上保安署に昇格し、46年4月現在の合同庁舎（新港町）に移転する。

臨海工業地

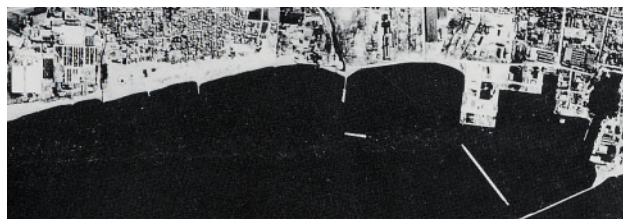
日本経済が高度成長期を迎えようとする昭和 30 年初頭、岸和田市においても臨海工業地の造成が計画され、昭和 31 年度には、協会の事業計画として臨海工業地帯の建設を促進するための、港湾調査を行う旨を掲げ埋立計画推進の役割を、最初に担いました。

港湾調査では、岸和田市や大阪府と供に協議検討が重ねられ、第 1 期事業として、第 1 区埋立地（阪南 1 区）と第 2 区埋立地（臨海町）を造成するうちの、第 2 区埋立地分については、昭和 35 年に埋立免許を取得し、昭和 36 年に着工され、総事業費 480,600 万円を費やし、総面積 639,114.66 m²の新市域が昭和 41 年 3 月に誕生しました。

昭和 40 年 5 月 13 日に進出第 1 号である大協石油にタンカーが入港して以来、鉄鋼業・金属加工工場・油槽所などの 60 数社が現在も操業しています。

また地盤沈下の進行に伴い、昭和 46 年の異常浸水や昭和 47 年の台風 20 号による浸水被害などで、多くの企業が多大な被害を受けたことにより、昭和

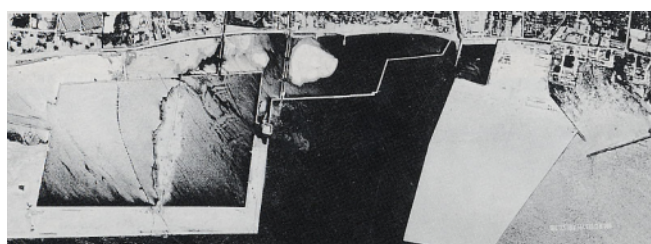
48 年に企業連名による防災陳情書を岸和田市に提出しました。このため海岸管理者である大阪府が事業主体となり、臨海町埋立造成地防災対策事業が、昭和 51 年から行なわれ、昭和 63 年には、防潮水門（岸和田水門）が完成し、また平成元年には新防潮ラインも完成しています。



埋立て前の岸和田海岸



造成中の臨海町



埋立て後の岸和田海岸

木材コンビナート

木材コンビナートは、急増する木材需要に対応するとともに、台風時の流木災害を防ぐことを目的とし、大阪府が昭和 39 年から昭和 41 年にかけて、整理場 220,000 m²・貯木場 800,000 m²・進出企業用地 840,000 m²及び港湾施設などを造成し、以来、原木の製品・加工・廃材処理までの一貫システムが導入されるなど、高度経済成長期を背景に府下有数の木材産業の基地として大きな役割を果たしてきました。

現在では、原木荷役形態が、水取りから陸取りへ移行しつつあることや、近年の木材需要の変化にあわせ、平成元年に、整理場側に新たに原木を扱う水深 12m 公共岸壁・荷捌地・保管用地・緑地などの約 9ha の埋立整備や、貯木場には、流通関連用地の約 13.8ha を埋立整備し、また係船ブイを 30,000 D/T 1 基・10,000 D/T 1 基、に変更するよう港湾計画の一部が変更され、平成 3 年には整備場側の埋立工事を着工し、平成 9 年度には、水深 12m 公共岸壁の整備や、荷捌地・保管用地・臨港道路・などの整備も終え機能の向上が行われています。



木材コンビナート完工式



木材港貯木場



阪南 1 区

阪南 1 区は、昭和 30 年代初頭に計画された、臨海工業地造成計画のうちの、第 1 区埋立地分であり、阪南港の内貿公共埠頭として計画されました。

昭和 42 年より整備が進められ、埠頭用地 480



, 000 m²、港湾関連用地 150, 000 m²・緑地 220, 000 m²・総面積が約 850, 000 m²・となっており、平成 2 年度に埋立が完了し、現在では、南側の水深 4. 5m 岸壁 10 バース・物揚場 1, 980 m²が供用開始されています。

平成 2 年度における取扱貨物量は約 101 万トンで、主に砂・砂利・石材などが中心となっており、また沖側の水深 4. 5m 岸壁 15 バースの供用も近々開始される予定となっています。

また阪南 1 区は、岸和田港振興協会が主催となって毎年行われている、岸和田港まつり花火大会の観覧場となっているため、大会当日には、多くの市民が花火を見物に訪れます。



花火を見物に阪南 1 区の観覧場に訪れる人々

岸和田水門

鉄工団地及び岸和田旧港周辺の防潮ライン（約 2km）は、臨海線沿いに昭和 30 年代に整備されたものであるが、昭和 40 年代から地下水採取が主原因と思われる地盤沈下が 10 年間で 50cm から 100cm 進み、防潮ラインとしての機能は著しく低下していた。また岸和田市が埋立造成した鉄工団地と岸和田旧港の公共埠頭地区は、防潮堤外となっていたため、



地盤沈下も相まって高潮や異常潮位でも再三浸水していた。これらの問題を解決するために防潮堤の嵩上げを行わずに、昭和 50 年に鉄工団地外周から岸和田旧港前面を通る新防潮堤ラインが計画され、さらに岸和田旧港と鉄工団地の両地域の接点に航路を確保し、台風時などに小型船舶が避難港として利用出来る、防潮水門（岸和田水門）が計画され、総費用約 36 億円を費やし昭和 63 年に岸和田水門が完成し、また平成元年には新防潮ラインも完成しました。

岸和田水門は、入出用 2 本の航路を開放できるように、同型（トラベリング・ローラ形式 純

径間/30.00m、扉高/11.15m)の2門が対象に設けられ、通常時は船舶の入出港(499t級船舶対象の往復路)に支障が無いようすべて航路外に格納されており、高潮時などで閉鎖する必要があると、左右の門は独立した閉鎖機構によって所定時間内(約55分)に閉鎖され、閉鎖後潮位が上昇すると、止水機能によって内水位の上昇が押さえられ、外水位が平常状態に回復すれば、航路を確保するために速やかに格納状態に戻されます。

岸和田旧港再開発事業

岸和田旧港は、昭和11年から昭和31年にかけて建設されたため、施設の老朽化や地盤沈下も激しく、また係留施設や流通機能も低下している状態にあった。しかし岸和田旧港は、歴史に恵まれ市街地にも隣接し、また湾岸線も通過することから地元より再開発の要望があり、大阪府・岸和田市・地元各関係者により、この再開発事業を検討する岸和田旧港再開発検討委員会や、岸和田の臨海部の整備・促進を検討するための岸和田市臨海地域整備促進会議が設立された。当協会においても、これらに積極的に参加し、岸和田旧港再開発についての詳細な内容を、ポートルネッサンス21の調査などを参考に検討し、昭和60年に8haを埋立る総面積20haの岸和田旧港再開発事業が計画され、また岸和田旧港再開発事業を実施する第3セクターである岸和田港湾都市(株)も設立されました。

岸和田旧港再開発事業は、地域の活性化と地域住民が楽しみ憩えるような都市機能のあふれた快適な港湾空間の創出を目的とし、商業施設や住宅、文化施設、緑地などの整備をすることにより総合的なまちづくりを進めており、水と緑、歴史と文化に包まれた新しい港湾都市の建設が大阪府・岸和田市・岸和田港湾都市(株)の協力により行われています。また新しく誕生したまちを「アクアヴェルデ岸和



昭和30年代初期の岸和田港全景



昭和50年代の岸和田港



岸和田カンカンベイサイドモールから

田」と名づけ、アメニティー豊かなウォーターフロントの創造を目指しています。

阪南 2 区

昭和 43 年に商港施設として阪南港港湾計画で計画決定され、幾度の計画変更を経て平成 7 年度に改訂された計画決定に基づき、物流機能の向上に加え、ゆとりと豊かさの現実、都市環境の改善と市街地環境の創造を図るという目的で、平成 10 年度に埋立免許が取得され整備が開始されました。

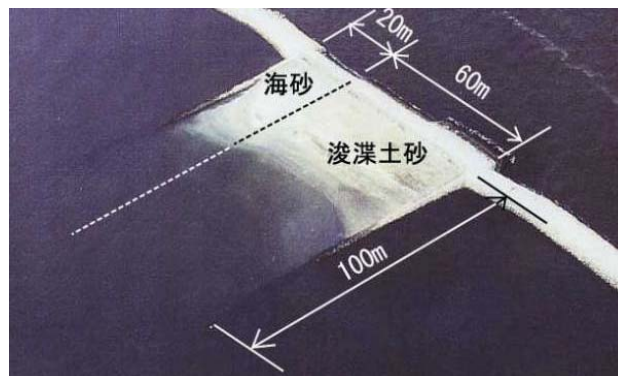
阪南 2 区では、水深 12m 岸壁 3 バース・水深 7m 岸壁 3 バースなど、外貿埠頭を中心とした埠頭用地や保管施設用地の整備を進め物流機能の向上が図られ、また現在、市街地や住宅系地域などに立地している工場などの移転を促進するための製造業用地や、ごみの資源・リサイクル・ダイオキシンの対策に対応した清掃工場が建設される供給処理施設用地、マリーナ用地などの整備も行われます。平成 14 年 12 月には、阪南 2 区と阪南 1 区を結ぶ岸之浦大橋（橋長 350m）も北側部分 2 車線が完成し暫定的に供用が開始されており、平成 15 年度までには、清掃工場用地 9ha を含む約 19.8ha が埋立られ、清掃工場の建設も始まります。



阪南 2 区人工干潟

阪南 2 区では、人々が自由に海に近づく砂浜や磯場を整備し、沖側には現在高潮対策事業や埋立事業により失われた親水機能等を回復し、豊かな水辺環境を提供するとともに、水質浄化機能の向上や、水生成物や鳥類の育成の場となる干潟の造成を行っています。平成 16 年より人工干潟にヨシ原を作り、アマモなどを植え付け、生育状態を観察し、人工的に埋立られた干潟がどれだけ機能するかという全国で初の実験が、大阪府と各研究機関の連携で行われようとしています。

またそれに先駆け平成 12 年には、阪南 2 区の北側仮護岸の内側に、捨石の土留堤で囲まれた幅 100m 長さ 80m の人工干潟実験区が設置され、大阪府立水産試験場による海域生物の状況調査や、大学や研究機関の自主研究の場として利用され、様々な調査研究が行われた結果、人工干潟実験区が海域生物の幼稚仔の保育場として機能していることや、野鳥の調査では、野鳥の会により 33 種の野鳥の飛来が確認され、大阪湾で初めてクロトウゾクカモメが観察され、大阪府で 333 番目の野鳥として登録されました。



阪南 2 区人工干潟実験区



ハマシギなど 33 種が人工干潟実験区に飛来



大阪湾で初めて観測されたクロトウゾクカモメ

阪 南 港 の 歴 史

年 月	記 事
寛政 3 年(1791)	藩主岡部氏の命により浦奉行伴丈左衛門が、漁船避難の目的を以って古城川尻和泉屋利兵衛所有の芦原を堀さくし之に防波堤を築き船入場として利用したのが、この港のはじまりである。
文化 14 年(1817)	地方役舟阪久兵衛、若林喜右衛門、西村権之右衛門に命じて大修築事業に着手する。
文政 12 年(1829)	袖波止、灯台が設置され、はじめて港湾の形が整備される。
安政 3 年(1856)	袖波止を撤去して 73m 西部へ移す。南波止 37m を築き、あわせて北波止を増築する。
明治 4 年 11 月	堺県の管轄となる。
14 年 2 月	大阪府の管轄となる。
15 年	大阪府に請願して地方税の補助を受け、連合町村費及び義捐金をもって浚渫する。
17 年	袖波止を延長して北部波止に接続し、一文字波止とする。なお海波の侵害を防がんがため、西北部の港口を封鎖して、新たに東北に港口を開ける
20 年	南波止 36m を西北に延長し、不動崎の北部波除石垣を築く。
23 年	南波止 33m を西北に延長する。
大正 11 年 5 月	内務省の指定港湾となる。
13 年	5 ケ年計画事業として延長 218m の捨石防波堤を築造する。
昭和 8 年 11 月	岸和田市営として第 1 期修築事業に着手する。
13 年 3 月	現在の西防波堤の一部と旧港の諸施設が完成し、一応近代港湾としての形態を整えた。
22 年 5 月	大阪税関岸和田監視署設置される(大北町 993 番地)。
22 年 5 月	岸和田港が大阪府に移管される。
22 年 5 月	府営港湾として第 2 期修築 3 ケ年計画を実施。
22 年 5 月	大阪府土木部岸和田港修築工営所設置される(北町 953 番地)。
22 年 11 月	近畿海運局岸和田出張所設置される。
23 年 4 月	岸和田旧港埋立地 19,871 m ² の岸和田市有地を大阪府に譲渡。
25 年 5 月	港湾法が施行される。
26 年 8 月	第 3 期修築事業に着手する。
27 年 2 月	岸和田港修築工営所庁舎移転(並松町 976 番地の現在地)。
27 年 2 月	岸和田港北防波堤に灯台が設置される。
27 年 5 月	岸和田港西防波堤に灯台が改良設置される(赤灯台)。
27 年 10 月	大阪府が港湾管理者となる。
27 年 12 月	岸和田港振興協会発足。
28 年	第 2 期修築工事竣工する。

28 年 8 月	第 1 回港まつり開催。
29 年 4 月	大阪税関岸和田監視署輸出入通関事務開始。
30 年 4 月	大阪税関岸和田監視署庁舎移転(並松町 631 番地)。
30 年 11 月	大阪湾浄化促進協議会発足する。
30 年 12 月	大阪海上保安監部岸和田分室設置される(大北町 993 番地)。
31 年 2 月	第 3 期修築工事完工し、岸和田港新港が完成する。
32 年 4 月	大阪税関岸和田監視署が、岸和田出張所に昇格。
34 年 7 月	大阪府土木部岸和田港修築工営所が、大阪府岸和田港修築工営所に名称変更される。
35 年 7 月	岸和田臨海工業用地造成計画決定。
35 年 7 月	岸和田市事業部接岸工業地帯造成事務所が設置される。
36 年 12 月	岸和田臨海工業地起工式。
38 年 10 月	木材港港湾計画決定(大阪府)。
39 年 2 月	木材コンビナート起工式。
39 年 11 月	輸入木材第一船入港する。
40 年 4 月	大阪海上保安監部岸和田分室が、岸和田海上保安署に昇格。
40 年 5 月	岸和田臨海工業地にタンカーが初入港する。
41 年 3 月	岸和田臨海工業用地埋立完成
41 年 8 月	岸和田臨海工業地完工式。
41 年 11 月	木材コンビナート完工式。
42 年 6 月	関税法による開港となる(6/1)。
42 年 9 月	植物防疫法による指定港となる。 植物防疫法施行規則第 6 条第 2 項の木材輸入港となり、輸入木材の検査、消毒取締を 神戸植物防疫所大阪支所が担当する。
42 年 9 月	木材港ポートサービスセンター(通船待合所)完成。
42 年 11 月	出入国管理令による指定港となる。
43 年 4 月	岸和田、貝塚、忠岡港を統合して阪南港となる(港湾法)。
43 年 4 月	阪南港重要港湾の指定を受ける(4/17)。
43 年 6 月	港則法による特定港となる。
43 年 7 月	阪南 1 区、2 区、3 区の公共埠頭計画、港湾審議会第 31 回計画部会で決定。
43 年 10 月	木材地区に自動給水、本船給水施設完成。
43 年 10 月	神戸植物防疫所大阪支所岸和田出張所開設される(新港町 4)。
43 年 12 月	岸和田港修築工営所木材埠頭事務所(新港町)2 階に大阪検疫所岸和田出張所開設される。
44 年 4 月	岸和田港修築工営所が岸和田港湾事務所と名称変更。
45 年 3 月	阪南 1 区埋立事業着工。

	45 年 3 月	近畿海運局岸和田出張所廃止される。
	45 年 4 月	近畿海運局岸和田出張所廃止に伴い船員法雇入公認等の窓口事務が岸和田市に移る。
	46 年 2 月	木材整理場、植物防疫用野積場及びー10m岸壁背後の公共用地が、関税法上の指定保税地域に指定される。
	46 年 4 月	大阪税関堺出張所が、堺税関支署に昇格したことにより同支署の岸和田出張所となる。
	46 年 4 月	岸和田港湾合同庁舎完成(新港町1番地)。 岸和田海上保安署、堺税関支署岸和田出張所、大阪検疫所岸和田出張所、神戸植物防疫所大阪支所岸和田出張所が新庁舎に入居する。
	49 年 9 月	阪南港木材地区港湾労働者福祉会館完成。
	50 年 6 月	阪南1区A地区 359,846.52 m ² 埋立完成(52年8月市域編入 317,954.97 m ²)。
	51 年 2 月	阪南港港湾計画の改訂、港湾審議会第72回計画部会で決定(目標年次昭和55年)。
	52 年 8 月	阪南1区に岸和田市大北下水ポンプ場(第2施設)用地 5,142.93 m ² 埋立完成(昭和52年10月市域編入)。
	53 年 3 月	関税法上、貝塚地区が開港に指定され、阪南港全域が開港となる。
	54 年 3 月	阪南港港湾計画改訂、港湾審議会第85回計画部会で計定(目標年次おおむね昭和60年)。
	55 年 5 月	臨海町岸和田漁港拡張分埋立免許取得。
	55 年 7 月	市役所の機構改革により産業部に港湾対策事務所設置。
	55 年 9 月	阪南港岸和田旧港港口部に水門設置計画、第7回大阪府地方港湾審議会決定(輕易)。
	56 年 8 月	阪南1区B地区 150,648.40 m ² 埋立完成(昭和57年1月市域編入)。
	56 年 11 月	阪南1区C-1地区 115,346.65 m ² 埋立完成(昭和57年1月市域編入 87,039.1 m ²)。
	56 年 12 月	阪南港岸和田旧港港口部の水門工事着手。
	57 年 7 月	阪南1区D地区 202,597.27 m ² 埋立完成(昭和57年11月市域編入)。
	59 年 4 月	岸和田港湾事務所が阪南港湾事務所と名称変更。
	60 年 12 月	旧港再開発港湾計画策定。
	62 年 11 月	第3セクター岸和田港湾都市株設立。
	63 年 3 月	岸和田水門完成・新防潮ライン完成。
	63 年 9 月	臨海町岸和田漁港拡張分埋立竣功認可。
平成	1 年 1 月	旧港埋立工事着手。
	1 年 7 月	木材埠頭用地整備事業港湾計画の一部変更。
	2 年 7 月	木材埠頭用地整備事業埋立免許出願。
	3 年 1 月	木材埠頭用地整備事業埋立免許取得。
	4 年 3 月	旧港埋立工事竣功。
	4 年 4 月	市役所の機構改革により港湾振興室設置。

5 年 5 月	木材埠頭用地整備事業第 1 区竣功認可 (1.5ha)。
6 年 1 月	旧港再開発地区 基盤整備着工。
6 年 4 月	阪神高速湾岸線供用開始。
6 年 5 月	旧港再開発地区町区域の変更「港緑町」誕生。
6 年 11 月	木材埠頭用地整備事業第 2 区竣功認可 (5.2ha)。
7 年 12 月	阪南港所湾計画改訂時に阪南 2 区整備事業が現在の計画に変更。
7 年 12 月	旧港再開発地区 基盤整備工事竣功。
8 年 4 月	旧港再開発地区 商業施設東館着工。
8 年 7 月	木材埠頭用地整備事業第 3 区竣功認可 (2.1ha)。
8 年 10 月	木材埠頭用地整備事業岸壁の供用開始。
9 年 1 月	旧港再開発地域の愛称「アクアヴェルデ岸和田」に決定。
9 年 3 月	旧港再開発地区 商業施設東館竣功岸和田カンカン(現ベイサイドモール EAST)開業。
9 年 4 月	市役所の機構改革により港湾振興室が産業部に入る。
10 年 4 月	旧港再開発地区 住宅施設着工。
10 年 6 月	旧港再開発地区 スポーツ施設着工。
10 年 10 月	旧港再開発地区 商業施設西館着工。
10 年 10 月	旧港再開発地区 スポーツ施設竣功スポーツドーム岸和田(現カンカンアリーナ) 開業。
11 年 1 月	阪南 2 区整備事業公有水面埋立免許取得。
11 年 2 月	阪南 2 区工事着工。
11 年 9 月	旧港再開発地区 商業施設西館竣功岸和田カンカンベイサイドモール(現ベイサイドモール WEST)開業。
11 年 10 月	旧港再開発地区 国際・文化施設着工。
13 年 11 月	阪南 2 区一部竣功市域編入岸之浦町が誕生。
14 年 4 月	旧港再開発地区 国際・文化施設竣功 浪切ホールとして開業。
14 年 7 月	阪南 2 区人工島の愛称「ちきりアイランド」・連絡橋の名称「岸之浦大橋」を公募により決定。
14 年 12 月	岸之浦大橋暫定 2 車線完成。

阪 南 港

港 湾 区 域

大阪府泉北郡忠岡町忠岡浜 1562 番地先海岸堤防基部（北緯 $34^{\circ} 29' 48''$ 、東経 $135^{\circ} 23' 23''$ ）から $0^{\circ} 70\text{m}$ の地点まで引いた線、同地点から $312^{\circ} 3, 235\text{m}$ の地点まで引いた線、同地点から $206^{\circ} 40' 7, 280\text{m}$ の地点まで引いた線、同地点から $126^{\circ} 30' 2, 715\text{m}$ の地点まで引いた線および陸岸により囲まれた海面、たし漁港法（昭和 25 年法律第 137 号）に基づき指定された岸和田漁港の区域を除く。



昭和 42 年阪南港開港記念式

地 勢

阪南港は東経 $135^{\circ} 23'$ 、北緯 $34^{\circ} 28'$ （岸和田港湾事務所）に位置し、北に大阪、堺市をひかえ、東に大阪平野をへだてて、生駒山、和泉葛城連山があり、南は和歌山に至り、西は大阪湾に面して対岸には淡路島があり、内海をへて外洋への門戸を開いている。

地 質

阪南港帯の地質は、大阪層群を基層とし、この上に堆積した新期洪積層からなり、その上に沖積層が広がっている。そしてまた沖積層の主成分は和泉砂礫と砂であるため海底地盤はきわめて良好であり、表層は砂礫層が沖まで続いている。

気 象

本港は瀬戸内海気候帯の東端に位置し、年間を通して温暖であり、気象は典型的な多照寡雨型である。また、風の特徴は・西ないし北西方向の海風が卓越し、平均風速 10m/s 以上の風は、その殆んどが冬期に集中する。

潮 流

海上保安庁の調査によれば、沿岸では南流が卓越している。しかしながら潮流の強さは微弱であり、航行船舶への影響は少ない。

設 立 趣 意 書

岸和田港振興協会設立趣意書

岸和田市及泉州一帯の産業経済並びに文化の向上発展は岸和田港の振興により進捗する事はもとより異論のない処であろうと存じます。

幸にして本港は昭和 22 年より第 2 期修築事業に着手し来年度に於て竣工の運びとなって居ります。又それと併行して第 3 期修築事業を計画中であつてそれが一日も早く完成を期さなければならない事態に立到りました。

此の時に当り官民一致協力して港湾振興発展のため、即ち港湾諸施設の改良整備、臨港鉄道の誘致岸和田港に対する啓蒙宣伝並びに四国定期船の誘致、掃海促進船員の厚生施設の完備、輸出入貨物の積極的誘致その他諸般の岸和田港湾繁栄策に対する速やかなる具体的実現を促進する強力なる市民運動の前衛として岸和田港振興協会の設立を企図し広く同士諸賢の御参加を得てその目的貫徹に挺進せんと欲するものであります。



昭和 30 年頃の岸和田港荷役風景

当 時 の 事 業 計 画

岸和田港振興発展のための諸施策の風立推進を画策しもって協会存立の使命達成に励進せんとするにある。

これがため次の各項について順次且計画的に其の具体的対策の樹立・推進に努めるものとする。

1. 岸和田港修築完成方促進について

既に周知せられている通り岸和田港第2期修築事業は現在工事中であり昭和28年度に於て大体竣工する運びと成っている。又それと平行して第3期修築事業を一日も早く工事に着手してこれが最短期完成'のため大阪府並びに政府当局に対し特別の措置を講ぜられんことを強く要請する運動を展開せんとするものである。

2. 港湾諸施設の改良整備促進について

岸和田港湾機能強化のために荷揚場等の係船施設の改良整備、公共上屋の新設、荷役機械の改良整備、電灯水道の整備強化並びに臨港道路の整備、舗装等によって岸和田港の荷役能力の高度化を図るため根本的に諸施設を検討し諸対策を樹立促進せんとするものである。

3. 臨港鉄道の誘致(港湾地帯交通)について

本港湾の昭和26年中出入貨物54万屯を超える実状にあり港湾修築完成の上は益々増加するものと考えられる。従って、この貨物の陸上輸送のため是非鉄道が必要であるから南海に交渉し臨港線を早急に完成するよう努力する。

4. 岸和田港に対する啓蒙宣伝並びに四国定期船誘致について

(1) 岸和田港に対する認識徹底のための諸対策

見学会、講演会の開催、パンフレットの刊行等による啓蒙宣伝対策の樹立

(2) 四国定期航路船の誘致促進について

淡路島及四国間の定期航路の誘致促進のため関係各界の協力を求め活発なる一大運動を展開してこれが早急なる実現を期するものとする。

5. 掃海促進について

目下海上保安庁に於て和泉灘航路の掃海は昨年以来着々実施中であるがこれが早期完成方を当局に強力要望することとする。

6. 船員の厚生施設の完備について

港湾には船員の足溜場を作り入港船舶の増加を計るためには是非完備した厚生(福利施設)を拡充しなければならない。これがためこの振興協会に於て諸対策を樹て強力に推進することとする。

なお歓楽街の建設についても相当協力することとする。

7. 輸出入貨物の積極的誘致を図ること。

8. その他岸和田港湾の繁栄事項



昭和27年12月19日設立總會（公会堂にて）

昭和28年3月当時の役員



昭和28年（第1回）港まつり
駅前のアーチ



昭和28年（第1回）港まつり
塔原岸城線に勢揃いした花自動車



昭和28年（第1回）港まつり
数千人の小・中学生が巡視船を見学



昭和28年（第1回）港まつり
岸和田港に訪問着水した水上飛行機

昭和28年度一般会計決算

収入の部

款 項	収入額	説 明
会 費 収 入	374,400 ^円	52社、29人
助 成 金	120,000	岸和田市助成金
繰 越 金	59,940	前年度繰越金
合 計	554,340	

支出の部

款 項	支出額	説 明
会 議 費	134,160 ^円	総会、諸会費
事 務 費	185,439	給料、消耗品費等
振 興 費	13,180	印刷費
合 計	332,779	

昭和28年度港まつり会計決算

収入の部

款 項	収入額	説 明
寄 付 金	156,000 ^円	協賛寄付金
繰 入 金	300,000	一般会計繰入金
合 計	456,000	

支出の部

款 項	支出額	説 明
事 務 費	9,264 ^円	印刷費、郵便料等
事 業 費	446,736	花火料 200,000 ^円 設備費 68,624 ^円 演芸費等 178,112 ^円
合 計	456,000	



昭和28年（第1回）港まつり
消防艇による五色の放水



昭和29年（第2回）港まつり
岸和田駅前を行進する象



昭和29年（第2回）港まつり
演芸五目めし、公開録音（朝陽小学校にて）



昭和29年（第2回）港まつり
たそがれコンサート

8月3日 納涼豪華 花火大会 仕掛花火 早打数百 (港埋立地)

行事	日程	時間	会場
現金ワシツカミ取り (三枚で一圓の抽せん)	7月29・30日 午前・午後		岸和田市商店街連合会
本場阿波踊り大会	8月1日 午前・午後		岸和田市商店街連合会
港まつり協賛	7月28日・29日・30日		岸和田市商店街連合会
演芸五目めし (公開録音)	8月1日 1時		朝陽小学校
たばこ音頭と映画の夕べ	8月1日 7時		成金場
マツダ芸能班	8月2日 7時		成金場
たそがれコンサート	8月2日 6時		成金場
巡視艇と消防艇の入港 (見学要)	8月3日 11時		成金場
水上飛行機の着水	8月3日 6時		成金場

祝港まつり 協賛大賣出し



昭和33年港まつり
浪切神社において初めて神事を行なう



港まつり夜景 花火大会



昭和33年4月19日 協会懇親会
下津の丸善石油を見学する協会会員



昭和35年港まつり
駅前商店街を行進中の府警音楽隊



昭和36年7月30日 米艦「レクレーマー号」
艦長、副艦長と市長、協会役員との親善交
歓会（公室にて）



昭和40年6月25日 第14回総会
（堺市鉄鋼ビルにて）

40年度一般会計決算

歳入	会費収入632,400円(50社、17人)
1,036,212円	市助成200,000円 繰越203,812円
歳出	会議費144,070円 事務費439,940円
986,799円	振興費402,789円

40年度港まつり会計決算

歳入	市支出金400,000円 寄付金596,000円
999,691円	繰越金ほか3,691円
歳出	事務費10,415円 花火料420,000円
811,736円	設備費ほか381,321円



昭和45年港まつり 巡視船「あわ」歓迎式典（木材港にて）



港まつり花火大会



昭和56年港まつり 巡視船「あしずり」・消防船「かいりゅう」
歓迎式典並びに乗船風景（木材港にて）



昭和56年港まつり 「スイングアイドル」による
たそがれコンサート（地蔵浜町にて）



岸和田駅前の立看板・横断幕

湾美化啓発活動

岸和田市の臨海部には、年々不法に投棄されるゴミが増え続け、ゴミの投棄は、生活環境を悪化させるだけではなく、降雨等により河川や海域に流入し水環境も悪化させ、様々な生物に甚大な影響を及ぼすとともに、船舶の航行や漁業活動の障害にもなっております。

岸和田港振興協会では、平成6年に岸和田市の臨海部における、ゴミ投棄や環境問題を考える為に、新たに環境部会を設置し臨海部の環境改善に向けての取組みを行うこととし、その活動の一環として港湾美化啓発活動を行っています。

平成6年に始まったこの港湾美化啓発活動は、岸和田市民の臨海部に対する意識を高めるため、駅頭などにおいて環境部会のメンバーが市民一人一人に臨海部の状況や、美化活動への参加協力を訴え、美化活動を行うもので、平成14年に第9回を迎えた港湾美化啓発活動においても、協会会員や、地元町会、各種団体等の協力を経て、約600人もが参加し臨海部の美化活動を行っています。

また港湾美化啓発活動は平成10年より「ゴミをなくそう。水をきれいに！」という合同キャンペーンの一環の行事としての実施を大阪府より依頼され、この合同キャンペーンへも参加協力しています。



岸和田駅での市民への呼びかけ



港湾美化活動の当日



岸和田港まつり

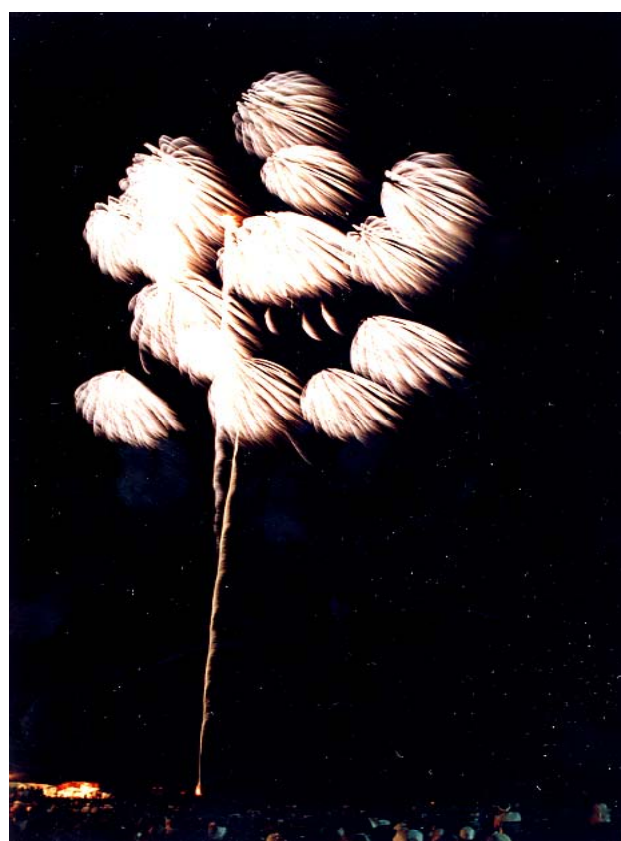
岸和田港まつりは、昭和 27 年に岸和田港振興協会が発足された翌年の昭和 28 年より協会会員の協力のもと毎年開催されています。平成 14 年には 50 回を数へ、様々な活動を行う岸和田港振興協会にとってもメインイベントとなります。なかでも花火大会は、悪天候による数回の中止を除けば毎年行われ、打上げられる千数百発の花火は、夏の風物詩として岸和田市民の間に定着しています。また昭和



阪南 4 区から見た花火大会

40 年代からは、花火大会と平行し、港まつりの一環として、第 5 管区海上保安署の協力により巡視船の体験航海がおこなわれていますが、昭和 20 年代から昭和 30 年代は、のど自慢大会や、たそがれコンサート、映画会、象の市中行進、大阪府警音楽隊の市中パレード、自衛艦の一般公開など、様々な時代のニーズに合わせた行事を行ってきました。

岸和田港まつり 花火大会



岸和田港まつり 巡視船体験航海



海上保安庁の巡視船「くわの」



巡視船体験航海 歓迎式典

体験航海を歓迎する巡視船「こんごう」



PM 09 くわの

総トン数 533

主要寸法（全長×巾×深）

67.8 × 7.9 × 4.4

航行区域 近海

岸和田港振興協会設立 40 周年記念事業

日本丸寄港

岸和田港振興協会設立 40 周年と岸和田市政施行 70 周年の記念事業として、多くの人々に海や港に親しんでもらい、港湾の振興を図るために、運輸省航海訓練所所属練習帆船「日本丸」に奇港を依頼し、平成 4 年 10 月 29 日に、阪南港岸和田 1 号岸壁に日本丸が接岸し、多くの人々が日本丸の凛々とした優雅な姿に感動しました。



木材町に接岸した日本丸

■ 日本丸の仕様



船体関係

船籍港	東京
船種	帆船
建造造船所	住友重機械工業株式会社 追浜造船所浦賀工場
起工 / 進水 / 建造年月日	1983.4.11 / 1985.2.15 / 1985.9.14
信号符字	JFMC
航行区域	遠洋区域
全長 × 幅 × 深さ	110.09 m × 13.80 m × 10.71 m
総トン数	2,570 ton
主機 × 出力	4 サイクルディーゼル機関(2 基) × 3,000 PS (2,206 KW)
燃料搭載量	433 m ³
清水搭載量	884 m ³
最大速力 / 航海速力	14.3 kn / 13.2 kn
航続距離	9,800 miles (18,150 Km)
最大搭載人員	190 名

運輸省航海訓練所所属の練習帆船「日本丸」などでは、海運界の将来の担い手を育成するため、船舶職員に必要な応用実践力と高度な知識技能の修得、さらに指導性や行動習慣の体得を目指した実習訓練が行われています。また、国際航海に従事する上で必要な幅広い視野と教養を高めることも実習の大きな目的となっています。

岸和田港振興協会設立 50 周年記念事業

岸和田ポートフェスティバル

平成 14 年に第 50 回を迎えた岸和田港まつりでは、毎年恒例の花火大会や巡視船体験航海に加え、岸和田港振興協会設立 50 周年記念事業として、「岸和田ポートフェスティバル」を地蔵浜町で開催しました。関空クルージングや歌謡ショー、カラオケ大会、マグロの解体販売、フリーマーケット、水揚げされたばかりの地魚を販売する「とれぴちタ市」などの催しを行い、たくさんの方々にお越しいただき大盛況のうちに終えることが出来ました。

設立より 50 年を迎えた岸和田港振興協会では、今後もより多くの人々に港と海への関心を高めていただき、港湾の振興を図るための「岸和田港まつり」を続けてまいりますので、ご関係の皆様方のさらなるご支援ご協力をお願いいたします。



第 50 回を記念した文字仕掛花火



漁船からあがった鮮魚を販売する「とれぴちタ市」



歌謡ショー（上）とカラオケ大会（下）



マグロの解体販売



平成 1 4 年度一般会計

歳入	予算額(円)	説明
会 費 収 入	2,730,930	82 団体 5 人
事業収入	564,000	福祉会館使用料等
助成金	720,000	岸和田市助成金
繰越金	1,901,072	前年度繰越金
雑収入	2,569,029	積立会費からの繰入れ等
合計	8,482,031	

歳出	支出額(円)	説明
会議費	1,308,655	総会費他
事務費	521,347	印刷代、旅費他
振興費	4,949,289	記念行事、視察他
福祉会館運営費	681,865	負担金、修繕費他
合計	7,461,156	

平成 1 4 年度港まつり特別会

歳入	収入額(円)	説明
寄付金	6,855,000	協賛寄付金
助成金	7,800,000	岸和田市、関空
雑収入	153	預金利子
繰越金	69,788	前年度繰越金
繰入金	3,000,000	積立金から繰入れ
合計	17,724,941	

歳出	支出額(円)	説明
事務費	85,330	旅費、会議費他
事業費	16,714,645	煙火料 8,400,000 設備費 3,123,844 報償費 3,287,325 その他 1,903,476
合計	16,799,975	

阪南港木材地区港湾労働者福祉会館

港湾で働く労働者は、常に船舶を中心とした、水上という危険で特殊な環境に従事しています。このような港湾労働者の作業効率向上を図るために、港湾労働者のための福利厚生施設として、阪南港木材地区港湾労働者福祉会館が大阪港湾福利厚生協会より建設され、当協会が運営管理を委託されています。昭和 49 年に開館され、現在ではコンビニエンスストアなどの臨海部への進出などで、港湾労働者の利用も減少し、また施設の老朽化が著しく、建替え等による環境の改善が強く求められています。そのような中現在も 1 階には食堂、2 階には喫茶室が港湾労働者のために元気に営業を行っていますので、機会があればぜひお立ち寄り下さい。



阪南港木材地区港湾労働者福祉会館（新港町）

1 階 丸井食堂



2 階 喫茶 春



昭和 年 月 日	5 0 年 の あ ゆ み
27. 12. 19	岸和田港振興協会発足 会長 阪口英三氏 副会長 池内幸次郎 市助役 専務理事 三田鶴太郎氏 会員 81 事務所 大阪府土木部岸和田港修築工営所内に置く。
28. 3. 6	理事会 諸問題審議後、特別地区、交通の実行委員を委嘱する。
4. 3	特別地区委員会岡田氏を委員長に推薦後、船員宿泊所の件審議
4. 3	交通委員会東京氏を委員長に推薦後、臨海道路の舗装、船津橋架換、四国定期航路、南海臨港線について審議
4. 13	南海観光汽船へ出張し岸和田港に回航並びに航路調査の確約得る。
4. 21	南海本社に出張し四国定期航路、南海臨港線問題について陳情
5. 2	岸和田港灯台設置陳情のため、東京へ出張し設置の確約を得る。
6. 1	大阪府港湾課へ出張し埋立地使用料問題について陳情
6. 19	埋立地使用料について、府と懇談し旧港野積場の料金に限り解決
7. 6	上京、海上保安庁次官外に灯台設置促進の陳情
7. 10	港まつり打ち合せ会当協会及び商工会議所主催、岸和田市後援 阪口会長が港まつり委員長に、三田理事が実行委員長に推薦される。
8. 1～3	第1回港まつり駅前にアーチ・のど自慢大会・水上飛行機による祝賀飛行・たそがれコンサート・巡視船の見学・消防艇による五色の放水・花火大会の各行事を行う。
10. 7	台風13号来襲、岸壁、船舶に被害あり懇談会開催、対策を市に要請
12. 16	理事会 防波堤物揚場事業促進、臨海道路移管等について審議
29. 2. 5	市役所別館を当港海員ホームに譲渡方陳情書を提出
2. 15	岸和田港湾区域決定について打ち合せ会 可及的実行を約束する。
3. 16	大阪保安監部長に警備艇誘致につき陳情
3. 24	第五管区海上保安本部に警備救難所設置方陳情
4. 7	理事会 船員宿泊施設の件及び救難所誘致について審議
5. 13	第五管区海上保安本部水路、警救両部長、大阪保安監部長、近畿海運局長来岸、警備救難所設置のため港湾視察
5. 22	東京へ出張し海上保安庁に警備救難所設置の陳情
6. 16	理事会 第2回港まつりについて審議、実施日、会場等決定
7. 8	大阪、神戸関係官庁に港まつり行事へ巡視船及び消防艇の派遣方要請し警備救難所設置促進並びに灯台増設の件について陳情

8.	1～3	港まつり 主催当協会 後援岸和田市、商工会議所 8/1 演芸・映画 8/2 演芸クイズ・たそがれコンサート 8/3 巡視船及び消防艇の見学・水上飛行機の着水・花火大会の各行事を行う。
9.	8	東京へ出張し海上保安庁へ警備救難所設置について陳情
9.	17	海上保安庁警備艇誘致問題につき第五管区海上保安本部へ陳情
9.	30	海上保安庁総務部長、警救部長に警備救難所分室設置につき陳情
10.	3	上京、海上保安庁長官、次官に警備救難所分室設置につき陳情
10.	13	上京、海上保安庁長官、次官外に警備救難所分室設置につき陳情
11.	11	第五管区海上保安本部へ出張し警備救難所分室設置につき陳情
12.	3	大阪府議事課長を訪問、警備救難所分室設置の助成金下附方陳情
30.	1. 24	理事会 警備救難所分室設置の件について審議
	3. 17	池内副会長退任に伴ない青木見一郎市助役就任
	3. 17	岸和田港施設促進のため上京、運輸省、海上保安庁に陳情
	5. 21	岸和田港埋立に関し港湾課長に陳情
	7. 2	理事会 第3回港まつり実施日、会場等について決定
8.	1～3	港まつり 8/2 府警音楽隊大演奏会 8/3 たそがれコンサート・港まつり撮影大会・花火大会等の各行事を行う。
31.	4. 1	「伸びゆく岸和田港」発行
	8. 1～3	港まつり開催
	8. 3	第5回総会 30年度決算及び31年度事業計画、予算承認
11.	6	大阪税関へ岸和田監視所の昇格について陳情
32.	2. 5	理事会 接岸埋立地の調査研究を港湾課長が引受けてくれたので・協会は専門小委員会特設する。事務所を岸和田市役所内に置くこと及び評議員新設につき会則改正する。
	2. 27	接岸埋立小委員会委員長に青木氏、副委員長に辻川氏選出
	3. 12	府庁へ市会建設委員と接岸埋立地の件につき陳情
	3. 27	接岸埋立地の件につき懇談会
	4. 9	上京し大蔵省、運輸省へ接岸埋立地の件について陳情
	4. 26	接岸埋立地に付いての協議会会議後、堺港埋立地視察
	5. 16	理事会 接岸埋立地の件について審議
	6. 7	協会会員懇親会宇治行
	6. 17	埋立地研究のため千葉港視察
	7. 8	理事会 総会議案について審議及び第5回港まつり実施決定
	7. 12	港まつり小委員会開催後、埋立地借地料金問題について府に陳情

7.	31	講演会 南極探険について講師南極探険船(宗谷)機関長
8.	1～3	港まつり開催
8.	3	第6回総会 31年度決算及び32年度予算、事業計画承認
9.	2	近畿海運局へ岸和田出張所存置運動
9.	8	接岸埋立地専門小委員会開催
9.	10	上京し海運局調整部長、総務部長に岸和田出張所存置について陳情
9.	24	近畿海運局へ岸和田出張所存置運動
10.	13	運輸省調整部訪問、近畿海運局岸和田出張所存置に関して陳情
10.	17	上京し運輸省海運総局調整部長訪問、地元出張所存置について陳情
12.	2	海上保安庁長官、次長、総務部長等訪問、岸和田分室昇格問題につき陳情上京中の第五管区本部長とも面会、昇格を確約された。
33.	1. 10	理事会 埋立地問題について審議
	1. 18	上京し運輸省等訪問、新年挨拶と港湾接岸埋立地計画打ち合せ。
	2. 20	「伸びゆく岸和田港」第2輯発行
	2. 25	理事会 埋立地問題について懇談、港湾周辺の舗装等の確約得る。
	4. 19	協会春期懇親会下津港視察
	4. 22	上京し海上保安庁訪問、分室昇格問題について陳情
	6. 18	理事会 総会議案審議及び港まつり開催決定、埋立計画について審議
	6. 25	港まつり運営委員会 初の神事計画のための小委員会を設ける。
8.	1～3	港まつり 8/1 写真コンクール 8/2 映画会 8/3 神事・祝賀飛行・巡視船見学・消防艇五色の放水・花火大会の各行事を行う。
	8. 3	第7回総会 32年度決算・33年度事業計画・予算承認及び役員改選
	8. 20	上京し運輸省計画課長へ埋立地推進の具申
10.	14	神戸市にて運輸省関係課長に面会、埋立地の件について懇談
11.	25	上京し大蔵省・海上保安庁に岸和田分室昇格の件について陳情
34.	1. 13	役員会 臨海工業地帯について、その後の経過報告
	2. 17	第五管区海上保安本部へ岸和田分室昇格問題陳情及び打ち合せ。
	3. 12	役員会 名古屋港視察及び堺港埋立地の視察について審議
	4. 9	協会春期懇親会 名古屋港視察
	7. 1	理事会 総会議案について審議及び港まつり実施決定
	7. 6	港まつり実行委員会 港まつり実施日 8月1日～3日に決定
	7. 22	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への見学巡視船回航依頼

35.	8.	1～3	港まつり 8/1 神事・映画会 8/2 映画会 8/3 巡視船見学・消防艇五色の放水・祝賀飛行・たそがれコンサート・花火大会の各行事を行う。
	8.	3	第 8 回総会 33 年度決算、33 年度予算、事業計画及び役員増員承認
	1.	13	役員会 臨海工業地帯その後の経過報告
36.	3.	2	上京し運輸省、農林省へ埋立地事業認可申請について陳情
	5.	23	理事会 総会議案について審議
	6.	21	第 9 回総会(於神戸市)34 年度決算、35 年度事業計画、予算承認及び役員選出後、神戸港埋立地状況視察
37.	7.	5	役員会 港まつり実施日、行事等について承認
	7.	19	大阪保安監部へ港まつり行事への消防艇派遣依頼
	8.	1～3	港まつり 8/1 映画会 8/2 神事・映画会 8/3 祝賀飛行・府警音楽隊市中パレード演奏会・巡視船見学・消防艇の放水・花火大会の各行事を行う。
38.	8.	10	運営委員会新設初会合 運営委員長に岡田氏選出
	1.	26	理事会 新年懇談会
	1.	30	青木副会長退任に伴ない金田健一市助役就任
39.	4.	24	理事会 総会議案について審議
	4.	29	上京、海上保安庁訪問、各関係要人に面会し岸和田分室の昇格等陳情
	5.	11	第五管区海上保安本部長、次長外に面会、分室昇格等要請
40.	5.	19	第 10 回総会(於姫路市)35 年度決算及び 36 年度事業計画、予算承認
	6.	13	岸和田埋立に関し将来的な要望書を提出
	6.	15	運営委員会 港まつりについて審議、実施日、行事等決める。
41.	7.	1	大阪神戸保安庁関係へ港まつりの協力方要請
	7.	30	米艦レクレーマー号艦長、副艦長上陸、日米親善交歓会開催
	8.	1～3	港まつり 神事・音楽隊演奏 8/3 米艦レクレーマー号入港・花火大会を行う。
42.	8.	15	岸和田港啓蒙宣伝のため、臨海工業地帯造成計画平面図配付する。
	1.	19	大阪保安監部、第五管区海上保安本部へ分室昇格について陳情
	1.	26	理事会 新年懇親及び埋立地漁業補償問題進捗状況報告
43.	4.	16	理事会 総会議案について審議
	5.	7	第 11 回総会(於和歌山経済センター)和歌山港・住友金属工業等を視察後、36 年度決算、37 年年度事業計画、予算承認
	6.	7	運営委員会 港まつりについて審議
44.	6.	19	理事会 港まつり実施日、行事等について承認
	7.	7	海上自衛隊訪問、港まつり行事へ自衛艦派遣依頼

8.	1～3	港まつり 8/1 神事 8/3 自衛艦 2 隻見学・巡視船見学・消防艇放水・映画会・花火大会の各行事を行う。
11.	12	運営委員会 阪口会長藍綬褒章拝受に伴う祝賀会開催の件
11.	20	第五管区海上保安本部へ分室昇格問題について陳情
11.	29	阪口会長の藍綬褒章拝受祝賀会
12.	12	運営委員会 祝賀会決算の承認及び木材港について審議
38	1. 29	理事会 木材コンビナート設置の件及び分室昇格の件について審議
	2. 1	第五管区海上保安本部へ分室昇格問題について陳情
	3. 25	運営委員会 総会議案及び理事会開催について審議
	3. 27	第五管区海上保安本部へ分室昇格及び定員減のため、増員陳情
	4. 1	事務局を建設部接岸工業地帯造成事務所内に置く。
	4. 9	第五管区海上保安本部長、近畿海運局長、大阪海上保安監部長来岸、岸和田港について懇談する。
	4. 12	理事会 総会議案について審議
	5. 2	運営委員会 会長留任問題について審議
	5. 10	第 12 回総会(於和歌山市雑賀崎)37 年度決算、38 年度事業計画、予算承認及び役員改選、会則改正副会長 2 名制とし岡田良吉氏を追任
	6. 17	運営委員会 会長留任問題及び港まつり開催の件について審議
	7. 1	理事会 港まつり実行委員選出、実施日 8 月 1 日～3 日に挙行決定、港湾関係善行者表彰及び木材コンビナートの件について審議
	7. 4	海上自衛隊大阪基地隊訪問、港まつり行事への自衛艦派遣依頼
	7. 5	第五管区海上保安本部訪問、港まつり行事への巡視船派遣依頼
	7. 8	港まつり運営委員会 港まつり行事等について決定する。
	7. 9	海上保安庁訪問、警備救難部長に岸和田分室昇格問題陳情
8.	1～3	港まつり 8/1 神事 8/2 港湾関係善行者表彰式 8/3 海上自衛隊駆船艇に乗艇・花火大会の各行事を行う。
	8. 29	議会議長に対して木材コンビナート設置に伴う要望書提出
10.	16	運営委員会 港まつり決算報告
10.	23	大阪海上保安監部岸和田分室長宿舍及び灯台移管問題について海上保安庁会計課長、計画課長に面会陳情
11.	11	第五管区海上保安本部へ灯台移管及び分室昇格について陳情
12.	4	運営委員会 人命救助表彰式、理事増員、会費値上げについて審議
12.	10	海上保安庁警備補給部長、警備救難部長に岸和田分室昇格陳情

39.	1.	8	理事会 大阪府港湾協会設立、理事増員、会費値上げについて審議
	2.	20	海上保安庁長官、警備補給部長、灯台部長を訪問し岸和田分室昇格、灯台移管陳情。松田代議士訪問、同問題について依頼
	3.	9	府庁林務課長、課長代理と面会、公共埠頭の件について陳情
	4.	15	運営委員会 総会議案及び会費口数増について審議
	4.	28	理事会 総会議案審議並びに洲本港福良港を視察することに決定
	5.	18	第13回総会(於兵庫県南淡町国民休暇村)38年度決算、39年度事業計画、予算承認及び洲本港、福良港を視察する。
	6.	17	第五管区海上保安本部へ岸和田分室昇格について陳情
	7.	10	運営委員会、理事会 港まつり実行委員選出、実施日等を決める。
	7.	16	第五管区海上保安本部へ港まつり挙行に伴う巡視船派遣依頼
	7.	17	港まつり実行委員会 港まつりの計画について審議
8.	1～3		港まつり 8/1 神事 8/2 港湾善行者表彰式 8/3 巡視船船内見学・花火大会の各行事を行う。
	9.	18	第五管区海上保安本部に灯台移管及び分室昇格について陳情
	9.	29	理事会 臨海道路の件について審議
10.	3		海上保安庁に分室昇格の件につき陳情
10.	14		運営委員会 分室昇格経過報告及び港まつり決算承認
40.	1.	29	理事会 新年交歓会、分室昇格経過報告、岸工会より木材港に対する陳情書提出の件、港湾使用料の値上の件について審議
	2.	1	港湾使用料値上問題について港湾課に陳情
	3.	1	運営委員会 岸工会よりの陳情の件・分室長宿舍用地貸借契約の件、保安協会岸和田支部発足の件、岸和田保安署開署式の件審議
	4.	1	大阪海上保安監部岸和田分室が岸和田海上保安署に昇格
	5.	7	運営委員会 保安署開署式、海上保安協会岸和田支部発足の件審議
	5.	12	運営委員会 総会議案について審議
	6.	2	理事会 総会議案及び岸和田海上保安署開署式について審議
	6.	14	岸和田海上保安署開署式
	6.	25	第14回総会(於堺市)39年度決算、40年度事業計画、予算承認及び役員改選後、海上より堺造成地、木材コンビナート等を見学
	7.	13	運営委員会、理事会 港まつり実行委員選考、実施日、行事等決定
	7.	21	運営委員会 港まつり挙行の件及び後任会長の件について審議
	7.	26	海上自衛隊大阪基地へ港まつり協賛依頼

8.	1～3	港まつり 8/1 神事 8/2 海上自衛艦入港都合により乗船は中止する。8/3 花火大会を行う。
9.	29	運営委員会 会長問題審議及び港まつり決算承認
10.	4	運営委員会 会長問題について審議
10.	19	理事会 阪口会長退任・会則改正を行い副会長 3 名制とし、金納英蔵氏を追任、金納氏を会長代理に選任
41.	1. 12	理事会 新年交歓会、阪口前会長に感謝状贈呈の件
	4. 30	運営委員会 総会議案について審議
	5. 3	憲法記念日に伴い本協会は、建設功労者表彰を受ける。
	5. 9	理事会 総会議案について審議
	5. 31	三田専務理事退任
	6. 3	第 15 回総会(於彦根市)40 年度決算及び 41 年度事業計画、予算承認
	6. 12	運営委員会 港まつり及び三田専務理事の後任について審議
	6. 18	理事会 港まつりの件承認、専務理事の件今後専務制を止める。
7.	25～27	開港、特定港、重要港湾、港湾整備計画等について関係官庁に陳情
	8. 1～3	港まつり 8/1 神事、8/3 接岸事務所に於いてパーティー、雨のため花火大会中止
	8. 8	大阪税関に開港について陳情
11.	29～30	開港について大蔵省に陳情
12.	28	市の機構改革により事務局を建設部建設監理課内に置く。
42.	1. 19	理事会 新年交歓会、港湾整備促進運動及び開港、重要港湾、特定港の指定並びに役員の一部変更について審議
	2. 17	運営委員会 港湾用地借上料の件、第 1 区埋立地促進について審議
	3. 23	運営委員会 港まつり及び近畿海運局岸和田出張所の件審議
	5. 8	運営委員会 総会議案について審議
	5. 18	理事会 総会議案及び他港湾の視察について審議
	6. 8	第 16 回総会(於箕面市)41 年度決算、42 年度事業計画、予算承認及び役員改選名誉会長阪口英三氏、会長金納英蔵氏、副会長金田健一氏、岡田良吉氏、春木久治郎氏を選任
	6. 16	第五管区海上保安本部、神戸植物防疫所、第三港湾建設局へ阪南港開港挨拶並びに植物防疫支所設置について陳情
	6. 20	運営委員会 港まつりの件及び開港祝賀会の件について審議
	6. 23	阪南港開港挨拶並びに植物防疫所設置について陳情のため上京
	7. 1	海上自衛隊大阪基地隊へ自衛艦派遣依頼
	7. 14	理事会 開港祝賀会及び港まつり実施日・行事等について承認

7. 25～26	港まつり・開港祝賀会 7/25 神事・港湾見学会を行う 7/26 開港祝賀式典開催、開港記念式典にあたり本協会は、阪南港の整備拡充の功績により知事より感謝状を受ける。
11. 7	運営委員会 港まつり並びに開港祝賀決算の件、港湾整備に対する諸要望の件、海上保安協会岸和田支部設置について審議
11. 20	阪南港内公共埠頭築造について大阪府知事に陳情する。
43. 1. 25	理事会 港湾整備促進陳情報告
2. 16	運営委員会 海上保安協会岸和田支部の件、事務局の拡充の件審議
3. 12	理事会 事務局の拡充について、古久保事務局長選任を承認
4. 2	市の機構改革により、建設監理課から総務課に課名変更
4. 19	運営委員会 総会議案について審議
4. 30	大阪海上保安監部、植防大阪支所、大阪検疫所に出張所設置陳情
5. 9	理事会 総会議案について審議
5. 9	第 17 回総会(於和歌山市加太町国民休暇村)42 年度決算・43 年度事業計画予算承認
5. 14	海上自衛隊阪神基地隊へ港まつり行事への自衛艦の配船依頼
5. 17	船津橋交差点に信号灯設置について要望書提出
5. 28	運営委員会 港まつり及び港湾施設使用料について審議
7. 2	運営委員会 港まつりについて審議、実施日 7/31～8/2 に決定
7. 23	阪南港予算獲得のため、運輸省港湾局へ陳情
7. 25	理事会 港まつり、行事、予算等について承認
7. 31～8. 2	港まつり・重要港湾指定祝賀行事 7/31 自衛艦一般公開 8/1 神事・港湾見学会・映画会 8/2 演芸大会の各行事を行う。
8. 22	阪南港合同庁舎建設について近畿地方建設局、財務局へ陳情
10. 29	運営委員会 港まつり報告及び阪南港合同庁舎建設について審議
44. 2. 17	阪南港入港状況報告書を会員に配布
3. 4	映画会「のびゆく岸和田港」
4. 26	運営委員会 総会提出議案について審議
5. 26	理事会 総会提出議案について審議
5. 26	第 18 回総会(於生駒郡信貴山)43 年度決算、44 年度事業計画、予算承認及び役員改選、春木副会長退任に伴い奥本真氏選任
5. 29	運営委員会 港まつり日時及び行事内容について審議
6. 5	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船派遣方依頼
7. 4	運営委員会 港まつり行事計画について審議
7. 18	理事会 港まつり行事計画、予算等について承認

7. 24～25		港まつり 7/24 神事・巡視船による体験航海 7/25 花火大会を行う。
10. 1		運営委員会 港まつり決算承認及び先進港湾視察について審議
10. 7		北九州港他視察
45. 1. 13		運営委員会、新春理事会 経過報告及び総会場所について審議
2. 18		運営委員会 近畿海運局岸和田出張所廃止問題について審議
2. 23		近畿海運局長宛出張所の存続について陳情
4. 1		市の機構改革により総務課から建設総務課に課名変更
4. 9		運営委員会 総会議案について審議
4. 25		理事会、運営委員会 総会議案について審議
5. 12		第 19 回総会(於姫路市) 必年度決算、45 年度事業計画、予算承認及び会則の一部変更並びに役員改選全役員再選
6. 15		運営委員会 港まつりについて審議
6. 30		第五管区海上保安本部外へ港まつり体験航海巡視船派遣方依頼
7. 17		理事会 港まつり実施日、行事、予算等について承認
7. 28～29		港まつり 7/28 神事 7/29 巡視船入港花束贈呈・体験航海・花火大会を行う。
9. 28		運営委員会 港まつり決算承認及び 46 年度総会場所について審議
12. 24		運営委員会 大型高速巡視艇の配置、海員ホーム建設について要盟
46. 1. 6		岸和田海上保安署長に大型高速巡視艇配置の要望書提出
2. 19		運営委員会 総会場所及び役員改選等について審議
4. 22		運営委員会 総会議案及び港まつり行事計画について審議
4. 28		理事会 総会議案並びに港まつり行事計画について審議
5. 11		第 20 回総会(於兵庫県南淡町国民休暇村) 45 年度決算・46 年度事業計画・予算承認及び役員改選
7. 1		運営委員会 港まつり行事及び予算について審議
7. 7		第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船派遣方依頼
7. 8		理事会 港まつり行事、予算等について承認
7. 27～28		港まつり 7/27 神事 7/28 巡視船による海上見学・花火大会を行う。
10. 26		運営委員会 港まつり決算承認
11. 23		先進港湾田辺港視察
47. 1. 24		運営委員会 総会について審議及び阪南港整備工事の進捗状況報告
4. 14		理事会、運営委員会 総会議案について審議
5. 11		第 21 回総会(於神戸市) 46 年度決算、47 年度事業計画、予算承認
6. 5		運営委員会 港まつり開催について審議

6.	26	大阪保安監部、第五管区海上保安本部へ港まつり巡視船派遣依頼
6.	27	運営委員会 港まつり行事計画、予算について審議
7.	4	理事会 港まつり行事計画、予算等について承認
7.27～28		港まつり 7/27 神事・7/28 巡視船による海上見学・音楽と映画の夕べ・花火大会を行う。
9.	7	運営委員会 港まつり決算承認
9.	19	阪南港福祉会館建設について説明会
11.	27	運営委員会 阪南港福祉会館建設予定について審議
48.	1. 22	大阪府知事に港湾施設使用料について陳情書提出
	2. 7	阪南(岸和田)港湾統計を会員に配布
	4. 4	運営委員会 総会議案について審議
	4. 26	理事会 総会議案について審議
	5. 15	第22回総会(於有田市)47年度決算、48年度事業計画、予算承認及び役員改選
	6. 18	運営委員会 港まつり開催について審議
	6. 27	大阪海上保安監部へ港まつり行事への巡視船派遣依頼
	7. 3	理事会 港まつり行事予算等、承認及び会長辞職願について審議
7.25～26		港まつり 7/25 神事 7/26 巡視船による海上見学会・花火大会を行う。
	12. 7	運営委員会 港まつり決算承認
49.	3. 26	運営委員会 総会議案及び阪南港福祉会館について審議
	4. 26	運営委員会 総会議案について審議
	5. 7	理事会 総会議案について審議
	5. 14	第23回総会(於大阪市港区)48年度決算、49年度事業計画、予算承認後、大阪南港見学
	6. 8	運営委員会 港まつりについて審議
	6. 18	理事会 港まつり行事、予算等について承認
	7. 8	大阪港湾福利厚生協会より阪南港福祉会館の管理運営依頼受ける。
	7. 10	運営委員会 阪南港福祉会館及び港まつりについて審議
7.24～25		港まつり 7/24 神事 7/25 巡視船による海上見学・花火大会を行う。
	8. 29	運営委員会、理事会 阪南港福祉会館について審議
	9. 24	大阪港湾福利厚生協会、各業者と福祉会館の管理運営委託契約締結
	9. 25	阪南港福祉会館開館
	10. 26	運営委員会 阪南港福祉会館に伴う補正予算について審議
50.	5. 12	運営委員会、理事会 総会議案について審議

5.	29	第 24 回総会 (於和歌浦) 49 年度決算、50 年度事業計画・予算承認及び役員改選金納会長退任会長に原昇市長選任、奥本副会長退任。会則改正・副会長 4 名制とし水田博史市助役・岩橋由一氏を選任
6.	5	第五管区海上保安本部長へ港まつり行事への巡視船派遣依頼
6.	10	運営委員会 港まつりについて審議
6.	20	理事会 港まつり行事、予算等について承認
7.	28～29	港まつり 7/28 神事 7/29 巡視船による体験航海・花火大会を行う。
8.	1	府港湾課へ臨海町護岸補強について陳情
9.	4	運営委員会 港まつり決算について審議
10.	28	運営委員会 運営委員会港湾視察について審議
11.	20	運営委員会 宇野港視察
12.	20	府道大阪臨海線船津橋の拡幅について府へ要望
51.	2. 5	運営委員会、新春理事会 臨港地区指定について審議
	2. 16	大阪府知事に対し、大阪府港湾施設使用料改定に対する陳情
	2. 26	運営委員会 総会及び港まつりについて審議
	4. 20	運営委員会 総会議案について審議
	5. 11	理事会 総会議案について審議
	5. 27	第 25 回総会 (於大津市) 50 年度決算、51 年度事業計画、予算承認
	6. 7	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船派遣依頼
	6. 18	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
7.	28～29	港まつり 7/28 神事 7/29 巡視船による体験航海・花火大会を行う。
	9. 4	運営委員会 港まつり決算について審議
10.	25	岸和田海上保安署へ航路標識の整備について、税関岸和田出張所へ開港区域の拡張について陳情
	10. 28	運営委員会 港湾視察について審議
11.	11～12	運営委員会 衣浦港視察
52.	1. 27	新春運営委員会、理事会 港まつり決算について承認及び講演会
	4. 18	運営委員会 総会議案について審議
	4. 26	運営委員会、理事会 総会議案について審議
	5. 9	第 26 回総会 (於和歌山県下津町) 51 年度決算、52 年度事業計画、予算承認及び役員改選
	5. 16	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船派遣依頼
	6. 23	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
	6. 24	市の機構改革により、建設総務課から建設管理課に課名変更

7. 27～28	港まつり 7/27 神事 7/28 消防船一般公開放水・巡視船による体験航海・花火大会の各行事を行う。
9. 12	運営委員会 港まつり決算及び国家機関等への要望について審議
11. 21	運営委員会 港湾運送事業等について研究
11. 28～29	国家機関へ開港区域の拡張等について要望
53. 1. 10	新春運営委員会、理事会 港まつり決算について承認及び講演会
3. 31	「阪南港」発刊
4. 17	岡田副会長死去
4. 24	運営委員会、理事会 総会議案について審議
5. 16	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船の派遣依頼
6. 26	第 27 回総会(於神戸市)52 年度決算、53 年度事業計画、予算承認及び会則改正について承認後、神戸港を視察する。
7. 8	運営委員会 港まつりについて審議
7. 10	理事会 港まつり予算、日時、行事等について承認
7. 26～27	港まつり 7/26 神事 7/27 消防船般公開放水・巡視船による体験航海・府警音楽隊パレード及び演奏会・花火大会の各行事を行う。
8. 25	運営委員会 港まつり決算及び国家機関への要望について審議
12. 11	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置等要望
54. 1. 12	新春運営委員会、理事会 港まつり決算について承認及び講演会
4. 26	運営委員会 総会議案について審議
5. 21	理事会 総会議案について審議
5. 30	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船派遣依頼
6. 1	第 28 回総会(於新和歌浦)53 年度決算、54 年度事業計画、予算承認及び役員改選後・和歌山港を視察する。
6. 21	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
7. 25～26	港まつり 7/25 神事、7/26 消防船一般公開放水・巡視船体験航海・花火大会を行う。
8. 20	運営委員会 港まつり決算及び国家機関への要望について審議
12. 18	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置等について要望
12. 24	国家機関へ阪南港の格付について要望
55. 1. 11	新春運営委員会、理事会 港まつり決算承認及び講演会
3. 21	近畿海運局存続について陳情
4. 23	運営委員会、理事会 総会議案について審議
6. 5	岸和田海上保安署へ港まつり行事への巡視船並びに消防船派遣依頼

6.	20	第 29 回総会(於尼崎市)54 年度決算、55 年度事業計画、予算承認後、尼崎港水門を見学
7.	8	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
7.	12	事務局を産業部港湾対策事務所内に置く。
7.23～24		港まつり 7/23 神事 7/24 巡視船による体験航海・花火大会を行う。
8.	25	運営委員会 港まつり決算及び国家機関への要望について審議
9.	4	海事思想普及のための講演会
12.	16	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置等要望
56.	1. 12	新春運営委員会、理事会 港まつり決算承認及び講演会
	1. 21	大阪府港湾施設条例改正反対陳情
	3. 2	運営委員会 総会及び港湾見学について審議
	4. 10	運営委員会、理事会 総会議案について審議
	4. 23	第 30 回総会(於市役所分館)55 年度決算、56 年度事業計画、予算承認及び会則改正を行い評議員、実行委員、専務理事を削る 役員改選
	5. 7	神戸ポートアイランド博覧会見学
	6. 8	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
7.29～30		港まつり 7/29 神事 7/30 消防船放水`巡視船による体験航海・たそがれコンサート・花火大会の各行事を行う。
	8. 11	港湾施設使用料改定に伴う陳情
	8. 17	港湾施設使用料改定に伴う陳情
	9. 22	運営委員会 港まつり決算及び国家機関への要望について審議
	11. 25	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置等について要望
57.	1. 14	新春運営委員会、理事会 港まつり決算承認及び講演会
	2. 3	運営委員会 創立 30 周年記念行事等について審議
	3. 30	運営委員会 創立 30 周年記念行事及び総会について審議
	4. 13	運営委員会、理事会 総会議案について審議及び 30 周年記念行事について承認後、講演
	5. 11	第 31 回総会並びに創立 30 周年記念式典(於産業会館)協会功労者、阪口英三氏、金納英蔵氏、金田健一氏、岩橋由一氏に感謝状、記念品贈呈後、56 年度決算、57 年度事業計画・予算承認
	6. 4	協会他港視察鳴門大橋見学
	6. 7	運営委員会、理事会 港まつり行事、予算等について承認
	7. 2	第五管区海上保安本部へ港まつり行事への巡視船、消防船派遣依頼
7.28～29		港まつり 7/28 神事 7/29 巡視船による体験航海・消防船の放水・花火大会の各行事を行う。

11.	4	運営委員会 港まつり決算、国等関係機関への要望等について審議
12.	17	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置について要望
58.	1. 14	新春運営委員会・理事会 港まつり決算について審議及び講演
	3. 22	運営委員会 運営委員長の選出及び運営委員の増員並びに総会他港湾視察について審議
	4. 26	運営委員会・理事会 総会議案について審議
	5. 26	運営委員会 総会日時場所・港まつりについて審議
	6. 28	総会(汽船くいーんあわじ)・大阪湾内見学
7.	27・28	港まつり 神事・巡視船体験航海・消防船の放水・花火大会の行事を行う。
10.	6	運営委員会 港まつり会計決算報告・国家機関等への要望について審議
11.	17	国家機関等への要望活動
11.	25	運営委員会 旧港再開発・部会の新設について審議
12.	19・21	在阪国家機関等への要望活動
59.	2. 2	運営委員会 部会の新設・総会について審議
	2. 8	理事会 港まつり決算・部会設置・総会議案について審議 講演
4.	20・21	総会(広島県)において決算・予算・事業報告・事業計画承認及び視察(造船所・三原港)
	5. 23	旧港再開発促進要望・陳情を府に対して行う。
	5. 25	理事会・運営委員会 港まつりについて審議
	7. 4	阪南1区防砂壁の要望書を港湾局に提出
	7. 12	運営委員会 港まつりについて審議
8.	2・3	港まつり 神事、巡視船体験航海、消防船の放水、花火大会の行事を行う。
	8. 29	運営委員会 国家機関に対する要望書について審議
	8. 31	大阪府港湾局へ国家機関に対する要望書を提出
	9. 26	運営委員会 港まつり決算原案、会費値上げについて審議
11.	21・22	旧港再開発について御意見を聴く会を開催する
11.	3	阪南港木材地区港湾労働者福祉会館創立10周年記念行事を行う。
12.	17・18	国家機関へ入国管理事務所阪南港出張所の設置等について要望する。
60.	1. 28	運営委員会 昭和60年度総会・会則の一部変更について審議 理事会 港まつり会計報告、昭和60年度総会・会費値上げ・会則の一部変更について審議及び講演会開催
	2. 6	大阪港湾福利厚生協会へ阪南港木材地区港湾労働者福祉会館の値上げについて陳情
	3. 5	運営委員会 昭和60年度港まつりについて審議
	3. 8	大阪港湾福利厚生協会へ阪南港木材地区港湾労働者福祉会館の値上げ調整案を提出

4.	15	運営委員会・理事会	総会議案について審議	
4.	23	総会(泉北海員会館)・大阪南港見学		
4.	30	運営委員会	港まつりについて審議	
6.	3	運営委員会	港まつりについて審議	
6.	14	理事会	港まつりについて審議	
6.	18	運営委員会	港まつりについて審議	
7.	20	港湾計画改訂説明会開催		
7.	25	運営委員会	港まつりについて審議	
8.	3・4	港まつり	3日神事、カッターレース4日体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。	
8.	7	阪南2区について	要望書を提出する。	
9.	4	運営委員会	新規会員の加入促進について審議	
10.	30	国家機関に対する	要望書を提出する。	
11.	11	他港湾見学会を	実施する(小浜港)	
12.	16～18	国家機関・府へ	陳情を行う。	
12.	24	阪南1区センターについて	要望する。	
61.	1. 10	運営委員会・理事会	港まつり会計決算報告	講演会
4.	14	運営委員会	総会議案について審議	
4.	24	総会(鳴門みさき荘)・大鳴門橋見学		
6.	3	運営委員会	港まつりについて審議	
6.	5	理事会	港まつりについて審議	
7.	3	運営委員会	港まつりについて審議	
7.	26・27	港まつり	神事、カッターレース、ヨットレース、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。	
9.	5	国家機関に対する	要望書を提出する。	
10.	14	運営委員会	港まつり決算その他について審議	
10.	28	ポートルネッサンス21について	関係省庁に陳情する。	
10.	28	港湾使用料の改訂	反対要望書を提出する。	
12.	18・19	国家機関、府へ	陳情を行う。	
12.	4	港湾労働者福祉施設について	陳情を行う。	
62.	1. 26	運営委員会・理事会	港まつり決算等審議	
2.	16	港湾施設用地の普通財産化及び港湾施設使用料金に関して	要望する。	
5.	12	運営委員会	総会議案について審議	
5.	23	理事会	総会議案について審議	

	5.	28	総会（共済会館びわこ）
	6.	9	運営委員会 港まつりについて審議
	7.	6	運営委員会 港まつりについて審議
	7.	8	理事会 港まつり他について審議
	7.	13	国家機関に対する要望書を提出
	8.	3	運営委員会 港まつりについて審議
	8.	8・9	港まつり 神事、カッターレース、ヨットレース、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
	11.	24	岸和田港湾都市株式会社創立披露会に出席する。
	11.	7	運営委員会 港まつり決算について審議
	11.	17	国家機関、府へ陳情を行う。
	11.	25	港湾労働者福祉施設について陳情を行う。
63.	1.	26	理事会 港まつり決算その他の審議・講演
	4.	20	運営委員会 総会議案について審議
	5.	10	総会（堺・泉北海員会館）、関西国際空港建設現場視察
	6.	6	運営委員会 港まつりについて審議
	6.	10	理事会 港まつりについて審議
	7.	7	運営委員会 港まつりについて審議
	7.	29～31	港まつり 神事、カッターレース、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
	10.	12	運営委員会 港まつり決算について審議
	10.	23	港湾労働者福社会館修理要望書を提出
平成元.	1.	12	理事会 港まつりについて審議・講演
	2.	14	運営委員会 総会議案について審議
	4.	10	運営委員会・理事会 総会議案について審議
	4.	21・22	総会（高松センチュリー） 高松港視察
	5.	24	運営委員会 港まつりについて審議
	6.	9	理事会 港まつり他について審議
	7.	19	運営委員会 港まつりについて審議
	7.	29・30	港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
	9.	27	運営委員会 港まつりについて審議
2.	1.	23	理事会 港まつり決算その他の審議・講演
	2.	27	運営委員会 総会議案について審議
	4.	20	理事会・運営委員会 総会議案について審議

4.	24	総会（岸和田市立産業会館）
5.	29	運営委員会 港まつりについて審議
6.	8	理事会 港まつりについて審議
7.	16	運営委員会 港まつりについて審議
8.	3	岸和田旧港 200 周年記念式典
8.	4・5	港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
10.	25	運営委員会 港まつり決算について審議
3.	1.	24 理事会 港まつり決算その他の審議
3.	26	他港湾視察（天保山ハーバービレッジ・海遊館）
4.	23	運営委員会 総会議案について審議
5.	7	総会
6.	13	運営委員会 港まつりについて審議
6.	24	理事会 港まつりについて審議
7.	19	運営委員会 港まつりについて審議
8.	3	港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
12.	20	運営委員会 港まつり決算について審議
4.	1.	18 港湾施設使用料の改訂に関する要望書提出
1.	22	理事会 港まつり決算について審議
4.	17	運営委員会 総会議案について審議
4.	20	理事会 総会議案について審議
5.	1	総会
6.	11	運営委員会 港まつりについて審議
6.	23	理事会 港まつりについて審議
7.	16	運営委員会 港まつりについて審議
8.	1・2	港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
9.	28	運営委員会 港まつり決算と協会 40 周年記念行事について審議
10.	5	理事会 港まつり決算と協会 40 周年記念行事について審議
10.	31～11.	5 港振興協会 40 周年記念事業「帆船日本丸一般公開」を実施
5.	1.	19 理事会 先進港湾視察について審議
2.	18	神戸ハーバーランド視察を開催する。
4.	14	運営委員会 総会議案について審議
4.	27	理事会 総会議案について審議
4.	27	総会

6.	4	運営委員会 港まつりについて審議
6.	4	理事会 港まつりについて審議
7.	6	運営委員会 港まつりについて審議
7.24・25		港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
9.	27	運営委員会 港まつり決算について審議
6.	1. 14	理事会 港まつり決算について審議
	2. 16	運営委員会 総会議案について審議
	4. 19	運営委員会・理事会 総会議案について審議
	4. 29	総会・世界リゾート博会場等視察
	6. 7	運営委員会 港まつり・部会設置運営について審議
	6. 13	理事会 港まつりについて審議
	7. 11	運営委員会 港まつり・港湾美化啓発活動について審議
	7. 17	港湾美化啓発活動に参加
7.30・31		港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
	9. 26	運営委員会 港まつり決算・部会運営について審議
10.	12	組織強化・啓発部会において他港湾の事業について協議
10.	24	環境部会において岸和田市臨海部の環境問題について協議する。
11.	7	計画調整部会において臨海部の事業・計画について協議する。
11.17・18		在阪国家機関要望活動に参加
	12. 7	組織強化・啓発部会において新規事業の取り組み・会員勧誘について協議
7.	1. 19	理事会 港まつり決算について審議
	2. 8	部会合同の臨海部(貝塚～泉大津)の視察を行う。
	2. 17	組織強化・啓発部会において会報発行について協議
	2. 20	阪神大震災・災害復旧要望活動を実施
	2. 22	環境部会 平成7年度港湾美化活動方針について協議
	3. 8	計画調整部会 平成7年度活動方針を協議
	4. 14	運営委員会・理事会 総会議案について審議
	5. 8	総会
	5. 11	環境部会 平成7年度事業計画、美化啓発活動について協議
	5. 18	運営委員会 港まつりについて審議
	5. 23	計画調整部会 木材コンビナートの現状と平成7年度事業計画を協議
	6. 12	理事会 港まつりについて審議
	6. 15	駅頭美化啓発活動を実施

6.	18	港湾美化啓発活動を実施
7.	8	組織強化・啓発部会 平成7年度事業計画について協議
7.	11	運営委員会 港まつりについて審議
7.	29	港まつり 神事、体験航海、消防船放水、花火大会の行事を行う。
8.	22	環境部会 港湾美化啓発活動について協議
8.	29	計画調整部会 市内商工業の現状、地域の物流について協議
10.	19	運営委員会 港まつり決算みこみについて審議
10.	21	港湾美化啓発活動を実施
10.	25	「きしわだみなとだより」創刊号を発行
10.	31	大阪港（WTC、ATC 他）を視察
12.	20	講演会「阪南港港湾計画の改定（港湾審議会を終えて）」を開催
8.	1. 24	理事会 港まつり決算について審議
	2. 6	環境部会 平成8年度事業方針について協議
	2. 21	組織強化・啓発部会 「みなとであそぼ」、平成8年度事業計画について協議
	2. 23	「きしわだみなとだより」2号を発行
	2. 27	計画調整部会 臨海部事業の進捗、平成8年度活動方針について協議
	3. 4	運営委員会 福社会館業務委託・動物検疫港指定について審議
	3. 15	動物検疫港の指定を要望
	3. 24	「みなとであそぼ」 さかなの即売会、ウォークラリー・フリーマーケット開催
	4. 22	運営委員会 総会議案について審議
	4. 25	理事会 総会議案について審議
	4. 25	総会
	5. 15	環境部会 平成8年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
	6. 3	運営委員会 港まつりについて審議
	6. 10	理事会 港まつりについて審議
	6. 11	組織強化・啓発部会 平成8年度活動計画について協議
	6. 12	駅頭美化啓発活動を実施
	6. 23	港湾美化清掃活動を実施
	7. 4	運営委員会 港まつりについて審議
	7. 26・27	港まつり 神事、花火大会
	10. 26	港湾美化啓発活動を実施
	11. 12	運営委員会 港まつり決算について審議
11月下旬		「きしわだみなとだより」3号を発行

12.	5・6	在阪国家機関要望活動に参加
12.	16	計画調整部会 部会運営について協議
9.	1. 23	理事会 港まつり決算について審議・講演会
	1. 28	組織強化・啓発部会 市民参加行事について協議
	2. 6	環境部会 平成9年度事業方針について協議
	2. 19	組織強化・啓発部会 近隣臨海部視察について協議
	2. 24	計画調整部会 部会運営について協議
	3. 24	港湾の視察（トライポートサザン21、エルシティー南港など）を実施
3月下旬		「きしわだみなとだより」4号を発行
	4. 18	運営委員会 総会議案について審議
	5. 9	理事会 総会議案について審議
	5. 9	総会
	5. 30	環境部会 平成9年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
	6. 6	運営委員会 港まつりについて審議
	6. 11	理事会 港まつりについて審議
	6. 11	駅頭美化啓発活動を実施
	6. 22	港湾美化啓発活動を実施
	7. 9	運営委員会 港まつりについて審議
	7. 26	「港まつり花火大会」台風9号のため中止
	8. 2	港まつり 神事、体験航海
	8. 26	環境部会 美化啓発活動の活動状況をまとめる
	9. 26	運営委員会 港まつり決算みこみについて審議
	9. 27	港湾美化啓発活動を実施
	11. 27	在阪国家機関要望活動に参加
	12. 12	計画調整部会 阪南2区計画について講演会を開催
	12. 18	組織強化・啓発部会 会報編集委員会について協議
10.	1. 21	理事会 港まつり決算について審議・講演会
3月下旬		「きしわだみなとだより」5号を発行
	4. 14	運営委員会 総会議案について審議
	5. 11	理事会 総会議案について審議
	5. 11	総会
	5. 28	環境部会 平成10年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
	6. 4	運営委員会 港まつりについて審議

6.	17	理事会 港まつりについて審議
6.	19	駅頭美化啓発活動を実施
6.	21	港湾美化啓発活動雨天のため中止
7.	10	運営委員会 港まつりについて審議
7.24・25		港まつり 神事、体験航海、花火大会
10.	27	運営委員会 港まつり決算みこみについて審議
11.	2	環境部会 美化啓発活動の活動状況をまとめる
11.	26	在阪国家機関に対する要望活動に参加
11.	28	秋季港湾美化啓発活動を実施
11. 1.	27	理事会 港まつり決算について審議・講演会
3.	19	近海臨海部（津名港、明石海峡大橋）視察を実施
5.	7	運営委員会 総会議案、港まつりについて審議
5.	31	理事会 総会議案、港まつりについて審議
5.	31	総会
6.	4	環境部会 平成 11 年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
6.	9	運営委員会 港まつりについて審議
6.	18	駅頭美化啓発活動を実施
6.	20	港湾美化啓発活動を実施
7.	8	運営委員会 港まつりについて審議
7.24・25		港まつり 神事、体験航海、花火大会
11.	13	秋季港湾美化啓発活動を実施
11.	24	在阪国家機関に対する要望活動に参加
12月上旬		「きしわだみなとだより」6号を発行
12. 1.	31	理事会 港まつり決算について審議・講演会
4.	12	運営委員会 総会議案について審議
4.	27	理事会 総会議案について審議
4.	27	総会
6.	1	運営委員会 港まつりについて審議
6.	9	理事会 港まつりについて審議
6.	16	環境部会 平成 12 年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
6.	29	駅頭美化啓発活動を実施
7.	2	港湾美化啓発活動を実施
7.	6	運営委員会 港まつりについて審議

7. 28・29	港まつり	神事、花火大会
8. 24	運営委員会	港まつり反省会
11. 16	近海臨海部(アジュール舞子、マリンピア神戸)	視察を実施
11. 24	在阪国家機関	に対する要望活動に参加
13. 1. 16	理事会	港まつり決算について審議・講演会
4. 19	運営委員会	総会議案について審議
4. 27	理事会	総会議案について審議
4. 27	総会	
6. 8	運営委員会	港まつりについて審議
6. 12	環境部会	平成 13 年度活動計画、港湾美化啓発活動について協議
6. 13	理事会	港まつりについて審議
6. 22	駅頭美化啓発活動	を実施
6. 24	港湾美化啓発活動	を実施
7. 19	運営委員会	港まつりについて審議
8. 3・4	港まつり	神事、花火大会、体験航海
9. 27	運営委員会	港まつり反省会
14. 1. 15	理事会	港まつり決算について審議
4. 11	運営委員会	総会議案について審議
4. 27	理事会	総会議案について審議
4. 27	総会	
5. 9	運営委員会	港まつり、50 周年記念事業について審議
6. 3	運営委員会	港まつり、50 周年記念事業について審議
6. 7	組織強化・啓発部会	会員の増加策について協議
6. 13	理事会	港まつりについて審議
6. 21	駅頭美化啓発活動	を実施
6. 23	港湾美化啓発活動	を実施
7. 8	運営委員会	港まつり、50 周年記念事業について審議
7. 22	運営委員会	港まつり、50 周年記念事業について審議
7. 27～8. 3	港まつり	神事、花火大会、体験航海
8. 4	協会 50 周年事業	「岸和田ポートフェスティバル」を開催
9. 6	組織強化・啓発部会	府への要望事項について協議
9. 26	運営委員会	港まつり反省会
10. 4	理事会	港まつり決算について審議

10.	29	大阪府港湾局に対し要望活動実施
11.	8	「阪南 2 区整備事業について」研修会を開催
11.	28	在阪国家機関に対する要望活動に参加
15.	2.	6 先進事例視察（㈱松下エコテクノロジーセンター・阪神淡路大震災記念：人と防災みらいセンター）を実施
	2.	12 運営委員会 平成 15 年度予算について審議

岸和田港振興協会 歴代会長・副会長

会長

阪口 英三	昭和27年12月～昭和40年10月
金納 英蔵	昭和40年10月～昭和50年 5月
原 昇	昭和50年 5月～現在

副会長

池内 幸次郎	昭和27年12月～昭和30年 3月
青木 見一郎	昭和30年 3月～昭和36年 1月
金田 健一	昭和36年 1月～平成 2年 9月
岡田 良吉	昭和38年 5月～昭和53年 4月
春木 久治郎	昭和42年 6月～昭和44年 5月
奥本 真	昭和44年 5月～昭和50年 5月
水田 博史	昭和50年 5月～平成15年 5月
岩橋 由一	昭和50年 5月～平成 3年 6月
山本 和夫	平成 2年 9月～平成 5年 5月
神原 柳三	平成 3年 6月～平成 9年10月
白檉 實	平成 5年 5月～平成13年 4月
烏野 誠一	平成13年 4月～現在
烏野 秀之助	平成15年 5月～平成15年 6月
柳曾 健二	平成15年 6月～現在

協会役員名簿(平成15年6月現在)

顧問	衆議院議員	中山 太郎	理事	春木漁業協同組合	川本 信義
"	岸和田市議会議長	藤浪 勝三		代表理事組合長	
参与	堺税関支署岸和田出張所長	梅田 克視	"	阪南港運(株)取締役社長	岸本 通
"	岸和田海上保安署長	池内 秀人	"	阪南港協同組合代表理事	榎並 重男
"	大阪府議会議員	浜崎 宣弘	"	岸和田市助役	松村 博史
"	大阪府議会議員	永野 孝男	"	岸和田市収入役	野口 聖
"	大阪府港湾局長	横山 隆司	"	岸和田市水道事業管理者	守口 照男
"	岸和田警察署長	長野 稔	"	岸和田市企画調整部長	三田 忠雄
"	南海電気鉄道(株)取締役社長	山中 諄	"	岸和田市総務部長	桐原 喜彦
相談役	大阪府港湾局総務部参事	岡本 圭司	"	岸和田市建設部長	中 伊佐男
	岸和田駐車場(株)	水田 博史	"	岸和田市都市整備部長	西田 昌恭
	代表取締役社長		"	岸和田市下水道部長	高雄 恒明
"		神原 柳三	"	岸和田市消防長	井出 明
会長	岸和田市長	原 昇	監事	出光興産(株)岸和田油槽所長	藤原 辰夫
副会長	岸和田商工会議所会頭	柳曾 健二	"	岸和田市漁業協同組合	音揃 萬佐夫
"	岸和田市助役	烏野 誠一		代表理事組合長	
常任理事	岸和田市産業部長	石田 眞一	運営委員長	岸和田港湾荷役(株)会長	岩橋 忍
理事	岸和田市議会	久野 久寿喜	副運営委員長	阪南港運(株)取締役社長	岸本 通
	総務常任委員長		運営委員	一心港運(株)代表取締役社長	横山 忠司
"	岸和田市議会	今口 千代子	"	出光興産(株)岸和田油槽所長	藤原 辰夫
	文教民生常任委員長		"	大阪鉄工金属団地協同組合	池永 正昭
"	岸和田市議会	山田 幸夫		代表理事	
	事業常任委員長		"	(社)大阪木材コンパネート協会会長	貴多野 泰夫
"	一心港運(株)代表取締役社長	横山 忠司	"	岸和田魚市場(株)代表取締役	金納 誠一
"	大阪鉄工金属団地協同組合	池永 正昭	"	岸和田観光バス(株)	隅田 幸次
	代表理事		"	岸和田港湾都市(株)	乾 建昭
"	(社)大阪木材コンパネート協会会長	貴多野 泰夫		代表取締役社長	
"	岸和田魚市場(株)代表取締役	金納 誠一	"	岸和田市漁業協同組合	音揃 萬佐夫
"	岸和田観光バス(株)	隅田 幸次		代表理事組合長	
	代表取締役社長		"	岸和田商工会議所中小企業相談所長	西岡 數房
"	岸和田港湾荷役(株)会長	岩橋 忍	"	阪口倉庫(株)代表取締役	阪口 達夫
"	岸和田商工会議所専務理事	道斎 芳雄	"	日本通運(株)堺支店長	梶村 光喜
"	岸和田製鋼(株)代表取締役	鞠子 重孝	"	原田セメント化工(株)	西田 芳雄
"	阪口倉庫(株)代表取締役	阪口 達夫		取締役支店長	
"	桜井工業(株)製材所代表取締役	桜井 新嗣	"	春木漁業協同組合	川本 信義
"	(株)泉州銀行	辻 太保		代表理事組合長	
	取締役本店営業部長		幹事	岸和田市総務部財政課長	出口 修司
"	泉州トラック事業協同組合	柏原 玄夫	"	岸和田市産業部商工観光課長	路次 博
	理事長		"	岸和田市産業部農林水産課長	阿児 達夫
"	日本通運(株)堺支店長	梶村 光喜	"	岸和田市建設部道路交通課長	平井 俊郎
			"	岸和田市産業部港湾振興室長	上田 重博

団 体 会 員 (五十音順)

会 員 名

(株) 旭 スポーツ 製作所	岸 和 田 港 湾 荷 役 (株)	(株) 大 興 商 会
イーグル警備保障 (株)	岸 和 田 市 漁 業 協 同 組 合	大同生命保険(株)阪和支社岸和田営業所
(株) 和 泉 工 務 店	岸和田市指定水道工事業協同組合	(株) 壇 建 築 計 画 事 務 所
和 泉 石 灰 建 材 (株)	岸 和 田 商 工 会 議 所	(株) 辻 鉄 工 所
一 心 港 運 (株)	岸 和 田 製 鋼 (株)	(株) 寺 本
出光興産(株)岸和田油槽所	岸 和 田 鮮 魚 商 業 協 同 組 合	東京海上火災保険(株)岸和田支社
岩 出 建 設 (株)	岸 和 田 中 央 商 業 協 同 組 合	(株) ト ク ヤ マ 大 阪 支 店
牛滝温泉 森やかの郷	岸 和 田 中 央 青 果 (株)	(株) 西 田 傳 太 郎 商 店
エクスプレス世界 (株)	岸 和 田 駐 車 場 (株)	(株) 西 村 運 輸 倉 庫
大阪鉄工金属団地協同組合	岸和田本通り商店街協同組合	日 本 通 運 (株) 堺 支 店
大阪府漁業協同組合連合会	(株) 紀 陽 銀 行 岸 和 田 支 店	日本ヘルス工業(株)近畿工事事務所
(社)大阪木材コンビナート協会	近 畿 環 境 興 産 (株)	(株) 橋 本 興 業
大 豊 運 輸 倉 庫 (株)	日 下 部 産 業	畑 野 工 業 (株)
覚 野 石 油 (株)	(株) 五 味 三 星 堂	原 田 セ メ ン ト 化 工 (株)
(株) カジノ	さ い か い 建 設 (株)	春 木 漁 業 協 同 組 合
梶 野 産 業 (株)	(株) 坂 口 商 店	(株) ハ ン ナ ン
(株) 川 中 ハ ウ ス	阪 口 倉 庫 (株)	阪 南 港 運 (株)
関西港湾サービス (株)	桜 井 工 業 (株) 製 材 所	阪 南 港 協 同 組 合
関西電力(株)岸和田営業所	(株) 信 太 山 製 材 所	阪 南 港 サ ー ビ ス (株)
関 西 木 材 (株)	島本海運(株)堺泉北・阪南事務所	日 吉 海 運 (株)
岸 貝 運 輸 (株)	(株) 新 泉 総 合 警 備 保 障	別 寅 か ま ぼ こ (株)
岸 港 運 輸 (株)	世 界 産 業 (株)	(株) 宝 泉 丸 油
岸 和 田 一 本 釣 組 合	(株) 泉 州 銀 行	(株) 北 海 鉄 工 所
岸 和 田 魚 市 場 (株)	泉 州 警 備 保 障 (株)	(株) 前 田 木 材
岸和田駅前通商店街振興組合	泉州トラック事業協同組合	松 浪 硝 子 工 業 (株)
岸 和 田 観 光 バ ス (株)	泉 州 燃 料 (株)	(株) 三 井 住 友 銀 行 岸 和 田 支 店
(株) 岸 和 田 久 我	(株) 泉 商	郵 全 倉 庫 (株)
岸 和 田 交 通 (株)	泉 南 倉 庫 (株)	雪 本 建 材 (株)
岸 和 田 港 湾 都 市 (株)	(株) 太 平 洋	和 織 工 業 (株)

個 人 会 員 (五十音順)

伊 藤 博 文

河 田 武 夫

久 保 英 二

岸和田港振興協会会則

(名称)

第1条 本会は、岸和田港振興協会と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、岸和田市産業部港湾振興室内に置く。

(目的)

第3条 本会は、岸和田港の振興対策を推進し、岸和田市及び泉州一帯の産業経済並びに文化の発展に寄与することを目的として次の事業を行うものとする。

- (1) 岸和田港の修築運営に関し積極的総合的に調査研究を行い、その具体的方策を樹立し、関係方面に建議進言するとともに諮問に応ずる等これを実現するための施策を強力に推進する。
- (2) 現有諸施設の強化拡充と諸対策。
- (3) 岸和田港に関する講演会並びに図書の刊行等による啓蒙宣伝運動。

(組織)

第4条 本会は、岸和田港振興に関し本会の趣旨に協賛する有志をもって組織する。

(会員)

第5条 本会の会員は、次の2種とする。

- (1) 正会員
- (2) 特別会員

2 正会員は、本会の趣旨に協賛するものにして第7条の会費を納めるものとする。特別会員は、本会の趣旨に協賛する学識経験者の中から理事会の推薦により加入するもので会費を徴収しない。

第6条 本会の加入は、理事会の決議による。

(会費)

第7条 会費は、会社団体1口につき月額1,100円、個人1口につき月額550円とし、それぞれ1口以上を負担するものとする。既納の会費は返還しない。

2 会費は、毎年4月、10月の2回に分けて納付するものとする。

(役員)

第8条 本会に次の役員を置く。

会 長	1名
副会長	4名以内
理 事	若干名
監 事	若干名

2 総会の決議により名誉会長1名を置くことができる。

(役員を選任)

第9条 会長、副会長、理事及び監事は、総会において選出する。役員の任期は2ヵ年とする。ただし再選及び留任を妨げない。

2 役員にして団体選出の者は、その基礎となった役職において改選又は改任があったときは、それに従って本会の役員も更改されるものとする。

(職務)

第10条 会長は、会務を総理し本会を代表する。副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは会長の職務を代理する。

2 前項の規定にかかわらず、助成金等の申請については、副会長に委任することができる。

(顧問、相談役、参与、運営委員)

第11条 本会に顧問、相談役、参与及び運営委員若干名を置くことができる。

2 顧問、相談役、参与は、理事会において選定し会長が委嘱する。ただし、団体選出の者は、その基礎となった役職において改選又は改任があったときは、それに従って更改されるものとする。

3 運営委員は、会員の中から会長が委嘱する。

4 顧問、相談役及び参与は、会議に出席し意見を述べることができる。ただし議決に加わることはできない。

第12条 会長は、会務を処理するため理事中から常任理事1名を指名する。

2 常任理事は、会長の指揮を受け第13条の職員を指揮して理事会の会務を行う。

(幹事、書記)

第13条 本会会務執行のため幹事及び事務局員若干名を置き、理事会の議決を得て会長これを任免する。

(会議)

第14条 総会は、本会の最高議決機関であり、毎年1回これを開く。

2 会長は、必要に応じて臨時総会を招集することができる。

3 会議の議長は、会長がこれにあたるものとする。

4 会議の議決は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の定めるところによる。

(会議付議事項)

第15条 総会に付議すべき事項は、次の通りとする。

(1) 本会の予算、決算、その他重要な事項。

(2) その他会長が付議する必要を認めた事項。

(理事会)

第16条 理事会は、総会より次期総会に至る迄の重要事項を審議する。

2 会長は緊急を要すると認めるときは、理事会の決議をもって総会の決議に代えることができる。

3 前項の場合、会長は、これを次回の総会に報告しなければならない。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費、寄付金、助成金及びその他の収入をもってこれにあてる。

第18条 寄付金の収受は、理事会の決議によるものとする。

(会計年度)

第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(補則)

第20条 本会則の改正は、総会の決議によるものとする。

附 則

本会則は、昭和27年12月19日より施行する。

附 則

本会則は、昭和31年8月3日より施行する。

附 則

本会則は、昭和38年5月10日より施行する。

附 則

本会則は、昭和40年10月19日より施行する。

附 則

本会則は、昭和42年6月8日より施行する。

附 則

本会則は、昭和 50 年 5 月 29 日より施行する。

附 則

本会則は、昭和 53 年 6 月 26 日より施行する。

附 則

本会則は、昭和 56 年 4 月 23 日より施行する。

附 則

本会則は、昭和 60 年 4 月 23 日より施行する。

附 則

本会則は、平成 4 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

本会則は、平成 6 年 4 月 26 日より施行する。

附 則

本会則は、平成 9 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

本会則は、平成 11 年 4 月 1 日より施行する。

阪南港入港船舶トン階級別年次表

単位：隻、トン

年	合計		10000G/T 以上		6000G/T 以上10000G/T 未 満		3000G/T 以上 6000G/T 未満		1000G/T 以上 3000G/T 未満		500G/T 以上 1000G/T 未満		100G/T 以上 500G/T 未満		5G/T 以上 100G/T 未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
昭和27年	(18,647) 32,685	(437,649) 621763											(430)	(61173)	(18,217)	(376,476)
昭和30年	36,950	569,489											386	54,958	36,564	514,531
昭和35年	27,438	545,716											746	82,825	26,692	462,891
昭和40年	20,070	921,844									7	4,240	2,546	403,951	17,517	513,653
昭和45年	22,000	2,908,638	43	465,554	24	221,618	72	294,987	139	292,593	187	131,868	5,438	1,137,419	16,097	364,599
昭和50年	12,734	2,243,103	24	286,538	16	142,723	56	223,466	108	269,038	199	152,232	4,627	1,015,048	7,704	154,058
昭和55年	10,256	2,512,656	23	308,877	13	93,126	110	470,221	153	340,114	236	178,366	4,433	1,035,858	5,288	86,094
昭和60年	9,735	2,092,006	9	119,526	12	77,071	111	473,116	150	277,004	174	132,613	3,590	935,722	5,689	76,954
平成元年	9,584	2,535,502	17	218,897	4	26,115	121	512,773	269	532,804	267	194,580	3,236	982,104	5,670	68,229
平成5年	9,591	2,317,835	21	318,285	2	16,039	104	428,551	285	648,780	138	98,961	2,378	747,266	6,663	59,953
平成10年	10,505	2,113,680	17	220,163	3	20,523	120	518,681	158	374,156	182	129,917	2,150	779,543	7,875	70,697
平成11年	8,961	1,886,967	19	285,094	12	76,892	112	489,462	126	187,688	147	105,565	2,045	681,475	6,500	60,791
平成12年	9,068	1,883,245	19	290,984	15	100,032	92	394,514	138	210,660	157	113,078	2,179	709,671	6,468	64,306
平成13年	8,916	1,756,804	24	382,149	15	98,435	62	266,311	158	243,046	158	113,956	1,823	589,941	6,676	62,966
平成14年	8,982	1,848,523	29	461,947	14	98,688	54	235,758	182	264,169	180	133,019	1,832	593,335	6,691	61,607

注：昭和27年は内訳不明（ ）内の数字は岸和田港

阪南港地区別入港船舶年次表

上段：隻 数（隻）
 下段：総トン数（トン）

年	合計	公共けい留施設						私設けい留施設
		忠岡地区	木材地区	岸和田地区	貝塚地区	阪南地区	二色地区	
昭和２７年	32,685	5,894		18,647	8,144			
	621,763	67,631		437,649	116,483			
昭和３０年	36,950	5,361		22,283	9,306			
	569,489	48,394		437,100	83,995			
昭和３５年	27,438	1,995		22,550	2,893			
	545,716	17,325		480,781	47,610			
昭和４０年	20,070	327		19,458	285			
	921,844	6,415		878,227	37,202			
昭和４６年	17,765	524	859	11,437	3,349			1,596
	3,043,070	130,326	1,249,294	647,319	531,335			484,796
昭和５０年	12,734	570	528	7,970	2,439			1,227
	2,243,103	86,703	908,257	333,563	426,855			487,725
昭和５５年	10,256	334	423	6,260	2,309			930
	2,512,656	61,135	1,061,831	393,332	481,303			515,055
昭和６０年	9,735	86	297	6,020	1,785	862		685
	2,092,006	16,635	733,315	153,930	360,566	366,849		460,711
平成元年	9,584	65	320	5,708	1,281	1,178		1,032
	2,535,502	11,228	871,294	111,699	285,227	491,271		764,783
平成５年	9,591	16	210	-	1,142	7,464	22	737
	2,317,835	3,004	741,907	-	299,240	492,541	5,176	775,967
平成１０年	10,505	-	190	-	792	8,824	35	664
	2,113,680	-	485,956	-	266,082	557,860	62,244	741,538
平成１１年	8,961	-	256	-	834	7,052	293	526
	1,886,967	-	648,205	-	237,690	410,748	133,216	457,108
平成１２年	9,071	-	194	-	944	6,976	377	580
	1,883,842	-	560,940	-	339,909	368,510	109,292	505,191
平成１３年	8,921	-	187	-	828	7,157	187	562
	1,757,654	-	534,417	-	288,489	362,664	81,699	490,385
平成１４年	8,982	-	188	-	942	7,225	120	507
	1,848,523	-	665,431	-	347,937	349,378	49,517	436,260

＊ 平成１２年以降隻数は延入港隻数です。

阪南港輸移出入海上出入貨物年次表

年	合計				単位：トン		
		外 貿			内 貿		
		計	輸出	輸入	計	移出	移入
昭和 27 年	740,111	-			-		
28 年	730,344	-			-		
29 年	694,475	-			694,475	28,023	666,452
30 年	714,974	-			714,974	30,336	684,638
35 年	751,467	-			751,467	23,112	728,355
40 年	1,415,665	-			1,415,665	86,650	1,329,015
41 年	1,803,208	-			1,803,208	101,012	1,702,196
42 年	2,977,434	716,856		716,856	2,260,578	532,220	1,728,358
43 年	2,637,830	737,566	15	737,551	1,900,264	284,066	1,616,198
44 年	3,422,338	1,006,103		1,006,103	2,416,235	310,463	2,105,772
45 年	3,651,452	1,056,495		1,056,495	2,594,957	354,609	2,240,348
46 年	3,633,147	1,045,519	650	1,044,869	2,587,628	490,222	2,097,406
47 年	3,871,768	1,142,967		1,142,967	2,728,801	444,301	2,284,500
48 年	3,674,029	966,571		966,571	2,707,458	355,592	2,351,866
49 年	3,235,907	721,130		721,130	2,514,777	297,966	2,216,811
50 年	2,694,292	534,214		534,214	2,160,078	267,296	1,892,782
51 年	2,842,222	518,867	1,510	517,357	2,323,355	285,137	2,038,218
52 年	2,873,710	702,978	10,218	692,760	2,170,732	281,548	1,889,184
53 年	3,513,212	796,314	23,457	772,857	2,716,898	286,496	2,430,402
54 年	3,546,463	836,144	21,623	814,521	2,710,319	338,471	2,371,848
55 年	3,158,831	658,021	1,634	656,387	2,500,810	301,502	2,199,308
56 年	2,575,373	384,143		384,143	2,191,230	247,816	1,943,414
57 年	2,426,654	481,852	2,688	479,164	1,944,802	216,795	1,728,007
58 年	2,573,350	429,810	-	429,810	2,143,540	229,146	1,914,394
59 年	2,898,630	403,493	-	403,493	2,495,137	265,527	2,229,610
60 年	3,092,113	598,942	-	598,942	2,493,171	243,062	2,250,109
61 年	3,131,664	560,159	-	560,159	2,571,505	218,087	2,353,418
62 年	3,353,251	740,538	-	740,538	2,612,713	153,455	2,459,258
63 年	3,838,619	633,633	1,651	631,982	3,204,986	177,739	3,027,247
平成元年	4,012,768	686,242	500	685,742	3,326,526	171,718	3,154,808
2 年	3,601,232	534,158	-	534,158	3,067,074	156,095	2,910,979
3 年	3,437,458	388,846	-	388,846	3,048,612	138,486	2,910,126
4 年	3,422,595	417,015	21,253	395,762	3,005,580	259,574	2,746,006
5 年	3,210,298	406,639	2,977	403,662	2,803,659	210,930	2,592,729
6 年	3,184,524	346,130	3,636	342,494	2,838,394	158,965	2,679,429
7 年	3,566,082	290,348	1,748	288,600	3,275,734	285,736	2,989,998
8 年	3,932,177	325,932	550	325,382	3,606,245	162,911	3,443,334
9 年	3,601,187	342,631	390	342,241	3,258,556	126,874	3,131,682
10 年	3,045,832	266,368	2,500	263,868	2,779,464	112,335	2,667,129
11 年	2,415,440	334,450	4,908	329,542	2,080,990	149,730	1,931,260
12 年	2,392,035	340,683	6,946	333,737	2,051,352	198,631	1,852,721
13 年	2,114,577	306,806	13,659	293,147	1,807,771	141,193	1,666,578
14 年	2,086,792	337,497	13,948	323,549	1,749,295	197,596	1,551,699

(注): 27 年～43 年は旧忠岡港、旧岸和田港、旧貝塚港の合計

主要品種別海上出入貨物年次表

(外 貿)

年 次 品 種	昭和 45 年	昭和 50 年	昭和 55 年	昭和 60 年	平成元年	平成 5 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年
計	ト 1,056,495	ト 534,214	ト 658,021	ト 598,942	ト 686,242	ト 406,639	ト 266,368	ト 334,450	ト 340,683	ト 306,806	ト 337,497
原木	1,055,557	534,214	646,567	577,589	542,644	403,662	209,500	228,489	226,339	157,328	195,971
その他木材	-	-	-	-	-	-	36,123	91,122	-	-	-
木材チップ	-	-	-	-	-	-	-	-	88,807	105,811	96,862
その他	938	-	11,454	21,353	143,598	2,977	20,745	14,839	25,537	43,667	44,664

(内 貿)

年 次 品 種	昭和 45 年	昭和 50 年	昭和 55 年	昭和 60 年	平成元年	平成 5 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年
計	ト 2,594,957	ト 2,160,078	ト 2,500,810	ト 2,493,171	ト 3,326,526	ト 2,803,659	ト 2,779,464	ト 2,080,990	ト 2,051,352	ト 1,807,771	ト 1,749,295
砂・砂利・石材等	904,333	641,059	797,992	912,685	1,316,320	965,025	1,377,978	1,065,205	-	-	-
砂・砂利	-	-	-	-	-	-	-	-	909,980	691,856	642,430
石油製品	317,247	366,001	431,410	522,254	1,021,229	983,207	756,250	323,900	364,015	387,314	316,398
鉄鋼	423,441	342,935	459,485	318,579	275,914	213,946	171,714	198,123	1,750	50,563	92,443
鋼材	-	-	-	-	-	-	-	-	297,861	190,678	149,310
セメント	64,630	156,208	154,418	144,691	128,937	175,083	164,711	158,017	169,929	144,804	138,301
その他非金属鉱物	123,121	111,575	147,721	177,875	162,707	131,535	83,821	94,824	-	-	-
非金属鉱物	-	-	-	-	-	-	-	-	110,594	121,364	139,334
重油	163,206	138,313	97,463	57,129	139,060	78,210	31,700	11,530	1,000	-	-
原木	119,266	164,984	85,003	56,427	62,986	41,442	36,191	34,879	46,345	55,354	43,160
金属製品	126,303	84,881	69,513	80,499	29,677	13,458	1,872	4,422	628	576	1,110
麦	50,543	64,960	59,648	58,636	57,015	56,808	58,663	69,402	65,531	68,372	73,331
金属くず	1,872	19,514	89,337	107,722	34,448	24,953	70,440	37,460	26,969	40,773	32,363
再利用資材	-	-	-	-	-	-	-	-	21,186	24,460	79,890
その他	300,995	69,648	108,820	56,674	98,233	119,992	26,124	83,228	35,564	31,657	41,225

* 平成 12 年に港湾統計の品種が 54 品種から 81 品種になりました。 は新品種コードです。

入港最大船舶年次表

年別	船名	総トン数	船籍
昭和 36	大 栄 興 丸	461	日 本
37	住 徳 丸	494	日 本
38	陽 真 丸	551	日 本
39	安 晴 丸	548	日 本
40	神 水 丸	617	日 本
41	若 葉 山 丸	10,134	日 本
42	サ ン ア ン ト ニ オ	11,902	パ ナ マ
43	モ ス ベ イ	17,345	ノ ル ウ ェ ー
44	洋 山 丸	12,360	日 本
45	ア リ ア ル	13,058	ノ ル ウ ェ ー
46	フ オ ス ピ ッ ク	12,190	ス ウ ェ ー デ ン
47	高 徳 丸	13,216	日 本
48	ダ イ コ ー ン	17,586	台 湾
49	ジーランドベンチャー	15,473	リ ベ リ ア
50	マンモスパイン	18,968	リ ベ リ ア
51	エイシャンアシワランス	16,190	リ ベ リ ア
52	バ ン ゲ オ ン	20,354	シ ン ガ ポ ー ル
53	成 文 丸	17,850	日 本
54	ゴールデンプリンス	15,411	リ ベ リ ア
55	ゴールデンプリンス	15,411	リ ベ リ ア
56	イースタングレース	17,055	パ ナ マ
57	ルーセント スター	15,354	リ ベ リ ア
58	グランドスプルス	15,284	パ ナ マ
59	レ ッ ド ア ロ ー	15,955	リ ベ リ ア
60	ホワイト ローザ	13,852	パ ナ マ
61	シトラスアイランド	15,833	日 本
62	樹 風	15,872	日 本
63	K I W A I S T A R	10,998	パ ナ マ
平成元年	P A C T R A D E R	16,605	リ ベ リ ア
2	A L A S K A	16,608	ミ ャ ン マ ー
3	JAPAN RAINBOW	17,066	パ ナ マ
4	ORIENTE HOPE	17,264	パ ナ マ
5	MOCKING BIRD	20,766	フ ィ リ ピ ン
6	ORIENTAL HARMONY	17,429	パ ナ マ
7	SAMSUN EARNEST	19,035	韓 国
8	GUARDIAN ANGEL	17,429	パ ナ マ
9	RUBIN STELLA	16,769	パ ナ マ
10	A M B E R W A V E	16,582	フ ィ リ ピ ン
11	GROBAL NEXTAGE	20,398	ミ ャ ン マ ー
12	GLOBAL ARRUW	20,395	パ ナ マ
13	PACIFIC ELFIN	21,388	パ ナ マ
14	ORIENTE SHINE	19,715	パ ナ マ

平成 1 4 年阪南港輸出貨物主要国別品種別表

国別		計	中国	韓国	ベトナム	イギリス
品種	計	13,948	8,858	3,550	1,500	40
金属くず		9,070	6,770	2,300	-	-
鋼材		4,838	2,088	1,250	1,500	-
非鉄金属		40	-	-	-	40

平成 1 4 年阪南港輸入貨物主要国別品種別表

品種	国別	計	マレーシア	カナダ	アメリカ	韓国	ニュージーランド	ソロモン諸島	中国	その他 2 ヶ国
	計	323,549	96,862	92,510	72,063	19,681	14,602	12,090	9,580	6,161
原木		195,971	-	92,510	72,063	-	13,147	12,090	-	6,161
木材チップ		96,862	96,862	-	-	-	-	-	-	-
鋼材		19,681	-	-	-	19,681	-	-	-	-
コークス		7,200	-	-	-	-	-	-	7,200	-
鉄鋼		1,500	-	-	-	-	-	-	1,500	-
製材		1,455	-	-	-	-	1,455	-	-	-
非金属鉱物		880	-	-	-	-	-	-	880	-

平成 1 4 年阪南港移出貨物都道府県別品種別表

国別 品種	計	福岡	和歌山	千葉	大分	愛媛	大阪	海上	その他 9 県
	計	197,596	78,907	24,156	18,281	14,276	11,079	6,408	21,556
再利用資材	78,604	68,094	-	-	-	10,179	-	-	331
原木	37,721	5,994	23,356	-	-	-	957	-	7,414
鋼材	25,373	3,649	-	18,281	-	-	651	-	2,792
砂利・砂	18,990	-	-	-	-	-	1,210	16,260	1,520
金属くず	16,856	-	800	-	14,276	670	-	-	1,110
水	5,296	-	-	-	-	-	-	5,296	-
化学肥料	4,065	-	-	-	-	-	-	-	4,065
石油製品	3,690	-	-	-	-	-	3,500	-	190
輸送用容器	2,030	-	-	-	-	-	-	-	2,030
その他 15 品種	4,971	1,170	-	-	-	230	90	-	3,481